



CE 9.5
Cisco Webex
DX70、DX80
ユーザ ガイド

内容

このユーザ ガイドの内容

概要

Cisco DX70 の紹介	4
このユーザ ガイドについて	4
Cisco DX80 の紹介	5
DX80 および USB ヘッドセット	5
Bluetooth ヘッドセットとのペアリング	6
資格情報を使用してログオンする	7
エクステンション モビリティについて	7
ビデオ電話	
連絡先リストから発信する	9
連絡先のリストについて	9
発信する前に連絡先を編集する	10
エントリ編集について	10
名前、番号、または住所を使用して発信する	11
発信について	11
着信コール	12
着信があった場合	12
通話中に別の通話に応答する	13
オプションについて	13
通話を切断する	14
切断について	14
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	15
保留について	15
対応中の通話の転送	16
転送について	16
帯域を変更する	17
帯域について	17
応答不可を有効にする	18
応答不可について	18
すべての通話の自動転送	19
通話の転送について	19
通話中にキーパッドを表示する	20
通話中のキーパッドの使用	20
既存の通話に参加者をさらに追加する	21
ビデオ会議について	21

会議から参加者を切断する	22
ビデオ会議について	22
Intelligent Proximity	
Cisco Proximity の超音波信号について	24
プロキシミティについて	24
コンテンツ共有	
通話中にコンテンツを共有する	26
コンテンツの共有について	26
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	27
プレゼンテーション レイアウトについて	27
スケジュールされた会議	
スケジュールされたミーティングに参加する	29
ミーティングへの参加	29
コンタクト	
お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ	31
連絡先リストについて	31
通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する	32
お気に入りについて	32
誰かを非通話時にお気に入りに追加する	33
この機能について	33
カメラ制御	
自画面のオン/オフを切り替えます	35
自画面とは	35
自画面 PiP の移動	36
自画面を移動する理由	36
遠端カメラ制御	37
カメラ操作について	37
設定	
アクセスできる設定の概要	39
バージョン情報管理	39

この目次のすべての項目はアクティブなハイパーリンクになっており (javascript 対応の読み取りシステムのみ)、クリックすると該当記事に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックすることで、章単位で移動することもできます

注: このユーザ ガイドで説明する機能のいくつかは、特定の市場ではオプションであるため、ご使用のシステムには当てはまらない場合があります。



概要

概要

Cisco DX70 の紹介

PC モニタとして使用します。HDMI ケーブルを使用して、コンピュータを HDMI ソケット (PC) に接続します (以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

[応答不可 (Do not disturb)] が有効である場合を除き、モード (PC またはビデオ) に関係なく、着信が通常どおりに表示されず。[「応答不可を有効にする」](#)、[18 ページ](#)を参照してください



- ① USB ポート
- ② HDMI ソケット (PC)。
- ③ HDMI ソケット外部モニター (未使用)
- ④ LAN 拡張接続。PC LAN をここに接続することで、Cisco DX70 と PC で共通の LAN 接続を共有できます。
- ⑤ LAN 接続
- ⑥ 電源ソケット

このユーザ ガイドに
ついて

このユーザ ガイドは、DX70 と DX80 の両方に適用されます。2 つのディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外、画面に表示される画像は同じです。

実際には、このガイドで使用されるスクリーンショットは DX80 の図に挿入されています。



- ① プライバシー シャッター付きカメラ (閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- ② マイクのミュート ボタンおよびスピーカーの音量コントロール
- ③ スピーカー
- ④ SD カード スロットおよびヘッドセットと USB のコネクタ。DX70 で Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、2 ページ先を参照してください。
- ⑤ 電源オン/オフ
- ⑥ マイク

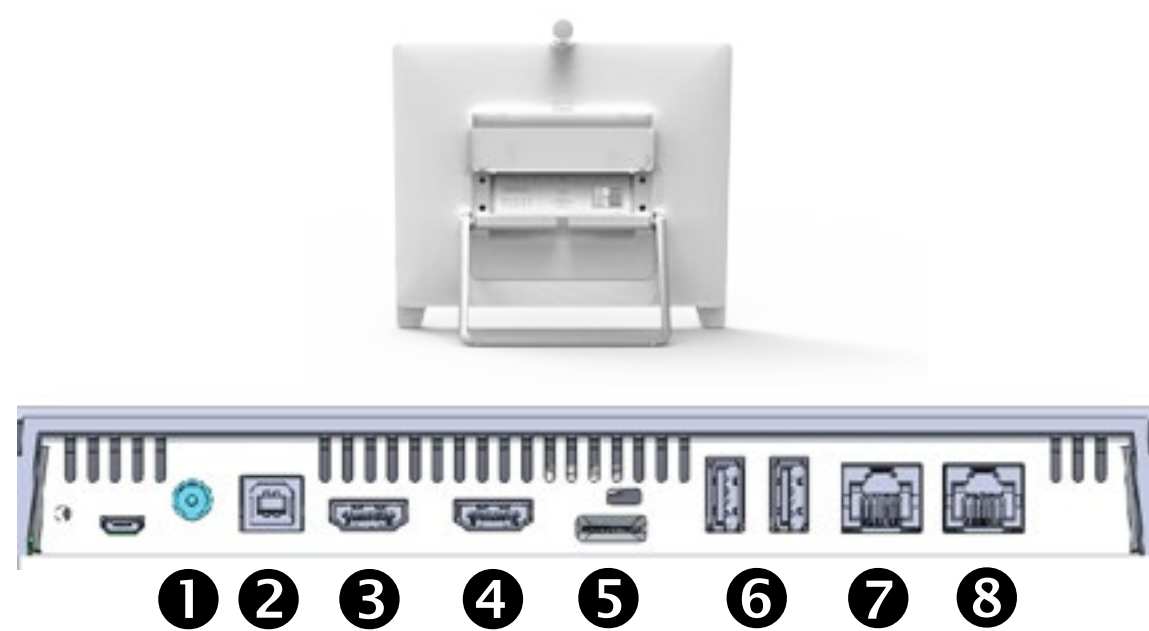
概要

Cisco DX80 の紹介

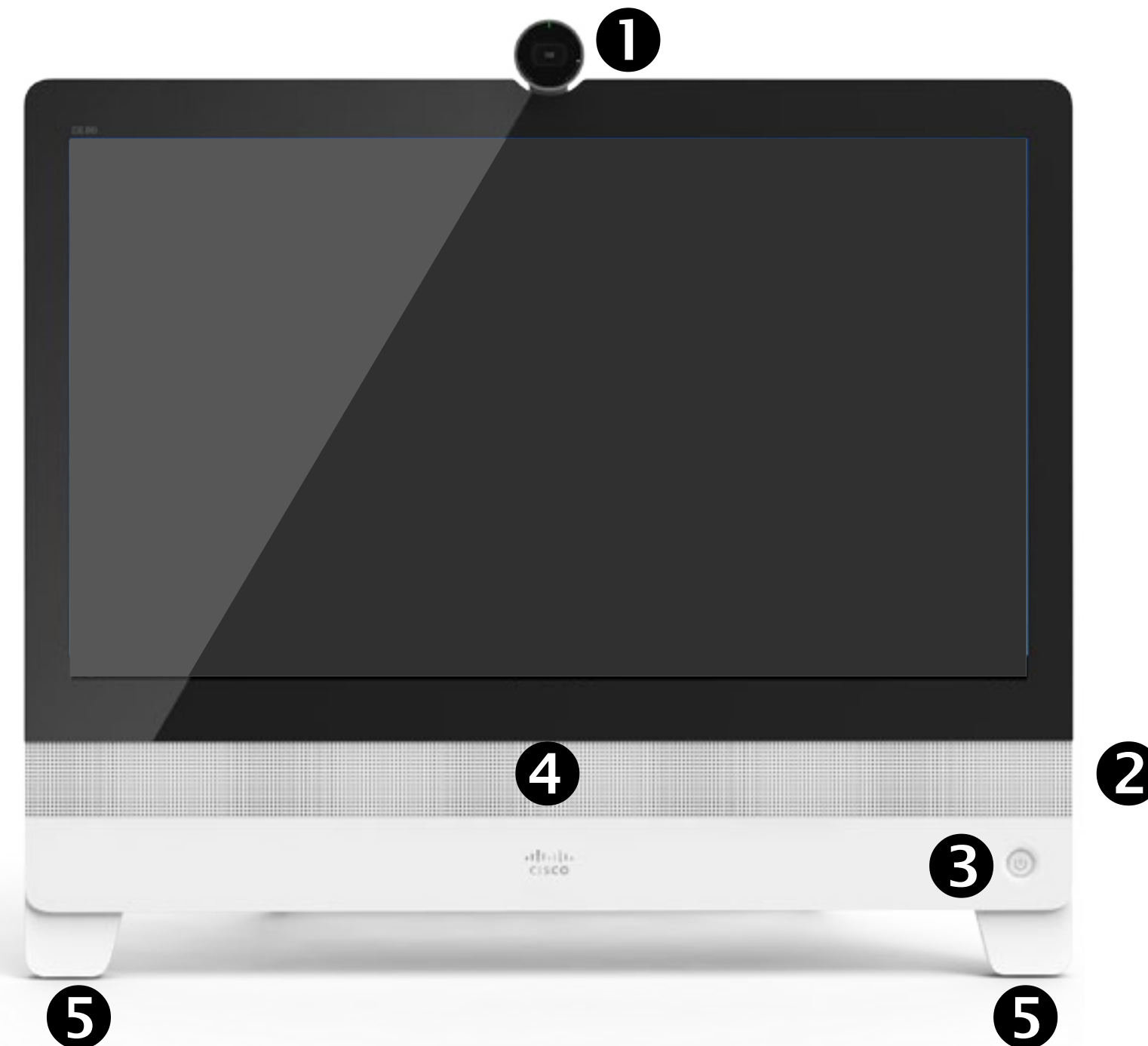
PC モニタとして使用します。HDMI ケーブルを使用して、コンピュータを HDMI ソケット (PC) に接続します (以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

[応答不可 (Do not disturb)] が有効である場合を除き、モード (PC またはビデオ) に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。[「応答不可を有効にする」](#)、18 ページを参照してください。



- ① 電源ソケット
- ② USB (コンピュータ接続用)
- ③ HDMI (コンピュータ接続用)
- ④ HDMI (外部モニタ接続、使用しません)。
- ⑤ SD カード スロットおよびケンジントン ロック
- ⑥ USB ポート
- ⑦ LAN 拡張接続。コンピュータの LAN をここに接続することで、Cisco DX80 とコンピュータで共通の LAN 接続を共有できます。
- ⑧ LAN 接続



- ① プライバシー シャッター付きカメラ (閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- ② マイクのミュート ボタン、スピーカーの音量コントロール、および USB ソケット (ユニットの右側)
- ③ 電源オン/オフ
- ④ スピーカー
- ⑤ マイク (各脚部分)

DX80 および USB ヘッドセット

DX80 には、USB 有線オーディオ デバイス用の標準プロトコルが実装されています。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、次のページを参照してください。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる) 標準を独自に実装できます。

そのため、同じメーカー製のモデルでも動作が異なる場合があります。すべてのヘッドセットとハンドセットの動作を保証することはできません。

CE 9.2 について、シスコがテストしたのは有線のヘッドセットまたはドングルを使用するヘッドセットのみです。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、次のページを参照してください。

提供されたヘッドセットのリストは完全なものではなく、その他多くのヘッドセットも機能する可能性があります。Jabra、Plantronics、および Sennheiser は独自のテストを実行して、DX80 をサポートするヘッドセットの独自のリストも提供しているため、この各社に問い合わせることをお勧めします。

次のヘッドセットはシスコによりテストされています。

- ・ Jabra Evolve 40
- ・ Jabra Evolve 65
- ・ Jabra Pro 9450
- ・ Jabra Pro 9470
- ・ Sennheiser MB Pro 2

Bluetooth ヘッドセットとのペアリング

Bluetooth ヘッドセット

DX70 と DX80 では Bluetooth ヘッドセットがサポートされています。

サポートされている Bluetooth プロファイル:

- ・ HFP (Hands-Free Profile)
- ・ A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

Bluetooth ヘッドセットは、組み込みの Bluetooth 無線または USB Bluetooth ドングルを使用することでサポートされます。

複数のヘッドセットをビデオ システムとペアリングできますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10 m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声はビデオ システムのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量は同期しています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能

- ・ 着信通話の応答
- ・ 着信コールを拒否する
- ・ 通話の終了
- ・ 音量の増減

一部のヘッドセットにはミュート コントロールがあります。これはビデオ システムのミュート コントロールとは独立して動作します。

ペアリングを開始するには、[設定 (Settings)] をタップします。メニューに [Bluetooth 設定 (Bluetooth settings)] が表示されます。

USB Bluetooth ドングル

音声品質が向上するため、USB Bluetooth ドングルを使用することをお勧めします。ドングルの使用時には、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とビデオ システムの音量が同期されません。

Jabra Link 360、Plantronics BT300、および Plantronics BT600 はテスト済みですが、それ以外も動作する可能性があります。

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。確信が持てない場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. 左下で説明されている [設定 (Settings)] に移動します。[システム情報 (System Information)] メニューの詳細については、「[設定](#)」、[38 ページ](#)を参照してください。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. ビデオ システムがデバイスをスキャンします。検出された Bluetooth ヘッドセットがデバイス リストに表示されます。
4. デバイスを選択するとペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功すると、ビデオ システムに接続済みのヘッドセットとしてリストされます。これでペアリングが完了します。

ビデオ システムのスピーカーと、Bluetooth または USB で接続されたデバイスとを切り替えることができます。

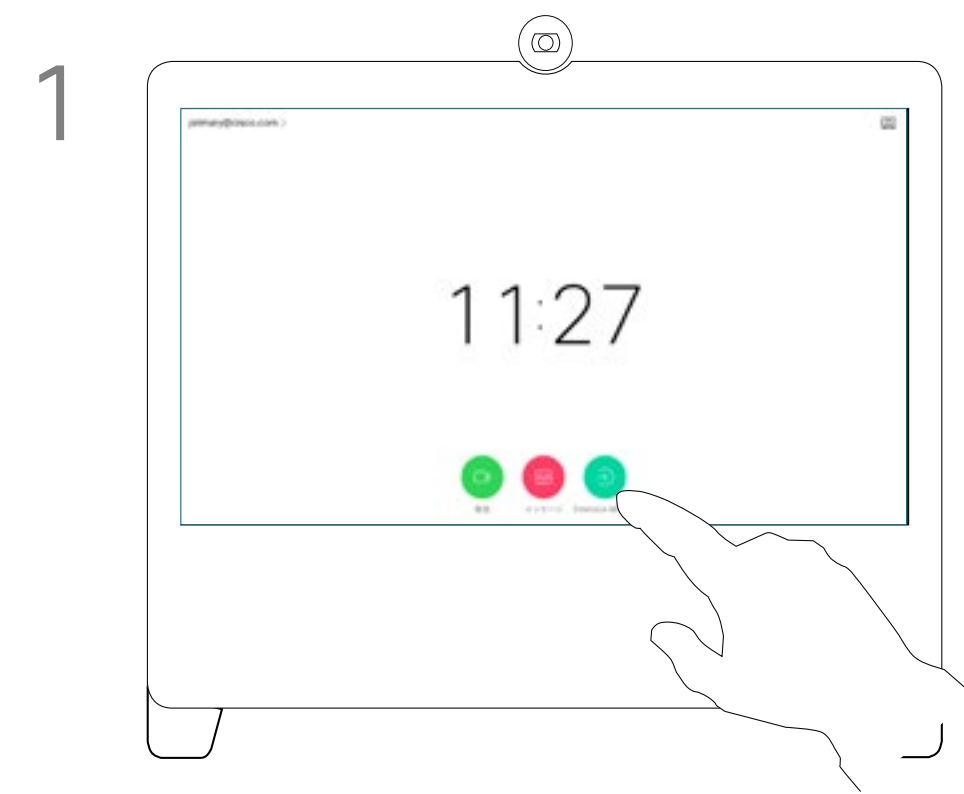
ユーザ インターフェイスのステータスバーでアイコンを選択し、利用可能なデバイスから選択します。



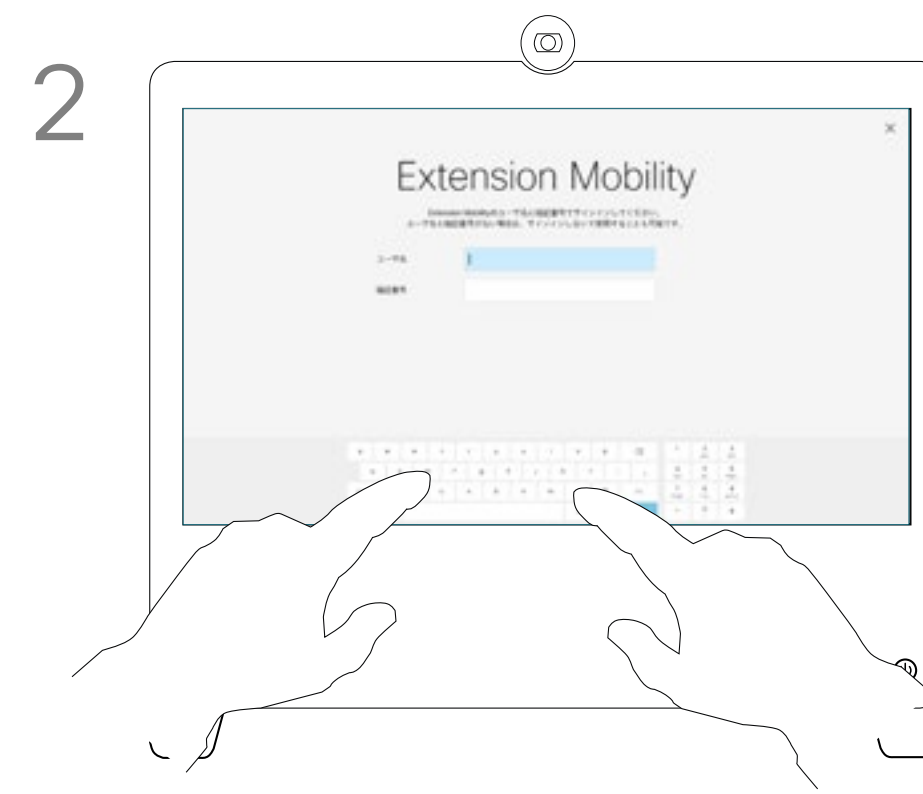
概要

資格情報を使用してログオンする

エクステンション モビリティについて



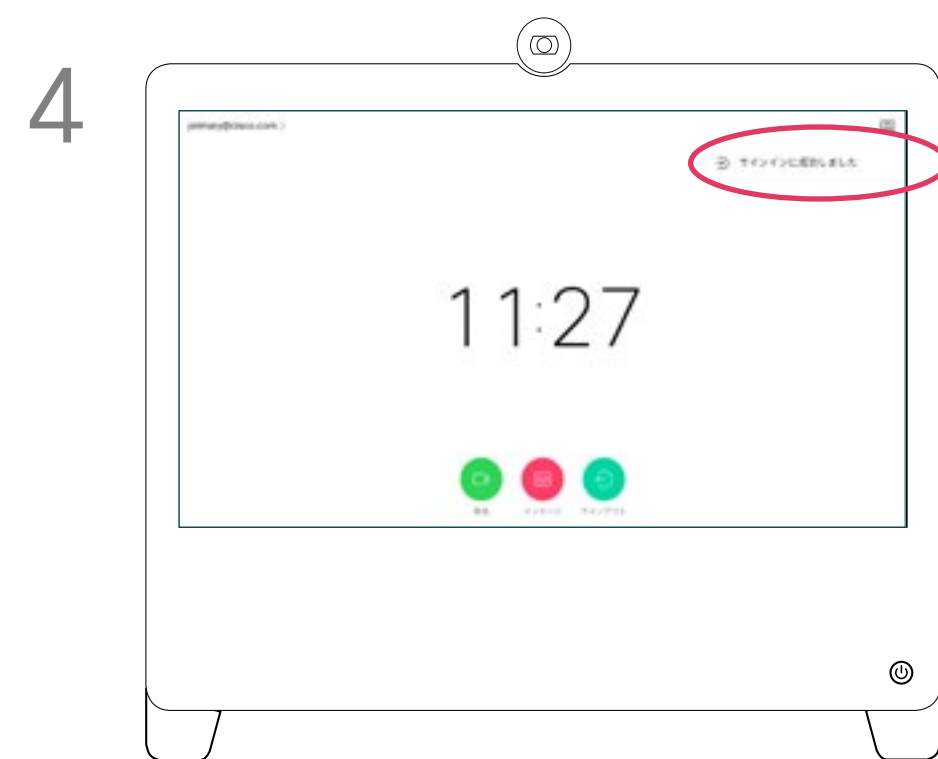
1 緑色の [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] ボタンをタップします。



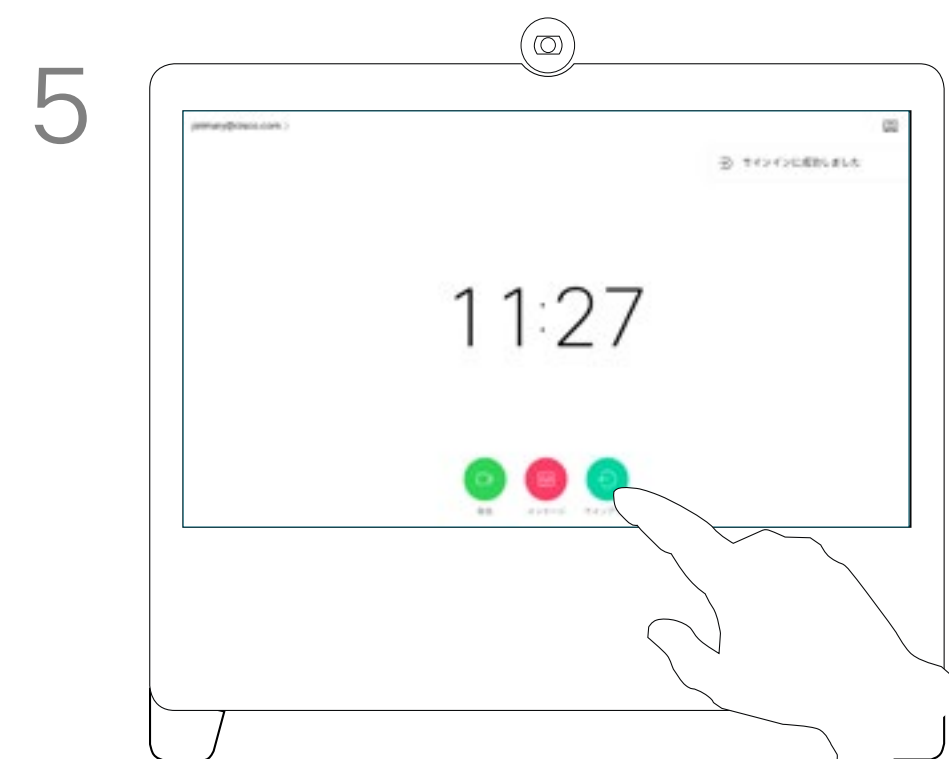
2 ユーザ名と PIN コードを入力します。



3 [ログイン (Login)] をタップします。



4 サインインが正常に行われたことをシステムが確認します。



5 ログアウトするには、図のように [サインアウト (Sign out)] をタップします。

会議室や静音室にある、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) で実行中のビデオ システムには、自身の資格情報でログインすることができます。

こうすると、CUCM は、自分宛ての着信をすべてそのビデオ システムにルーティングします。

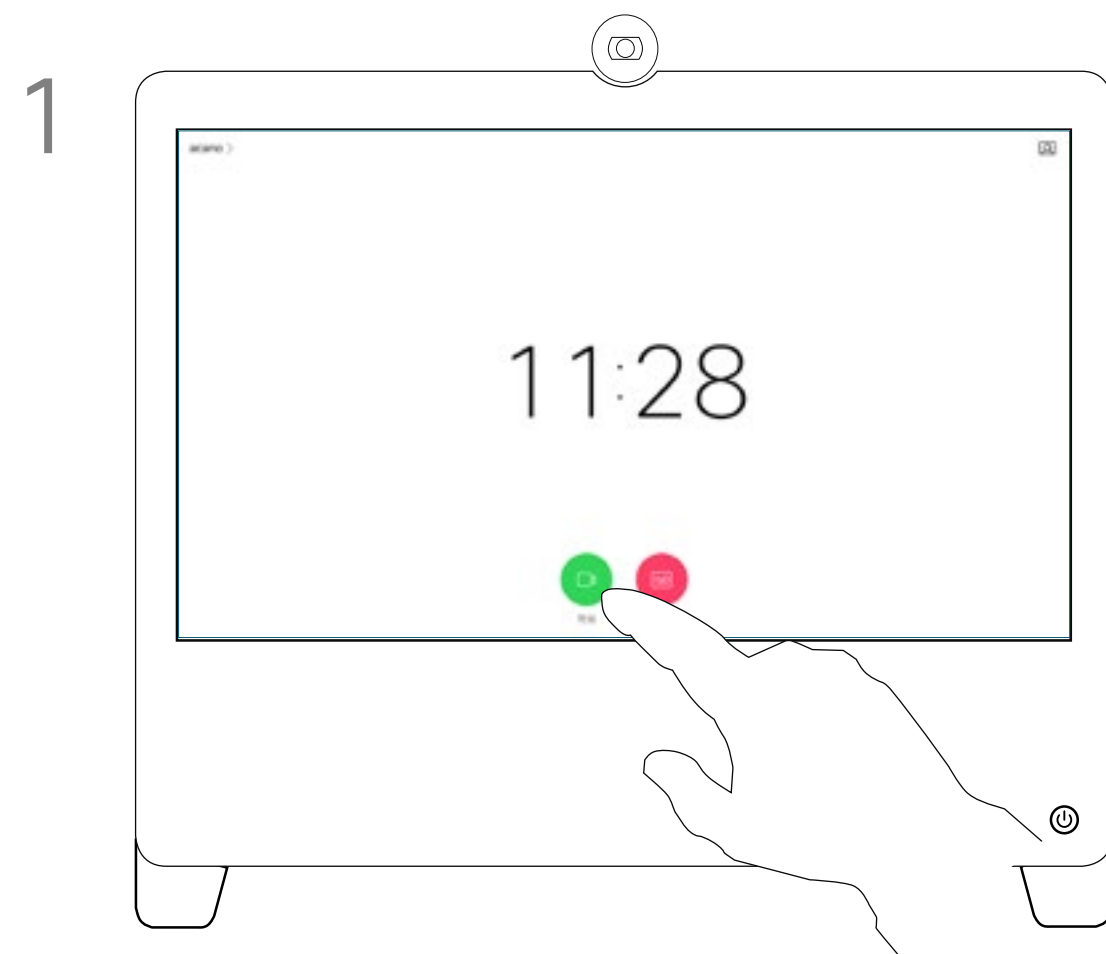
エクステンション モビリティからログアウトすると、[発着信履歴 (Recents)] の一覧がシステムからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

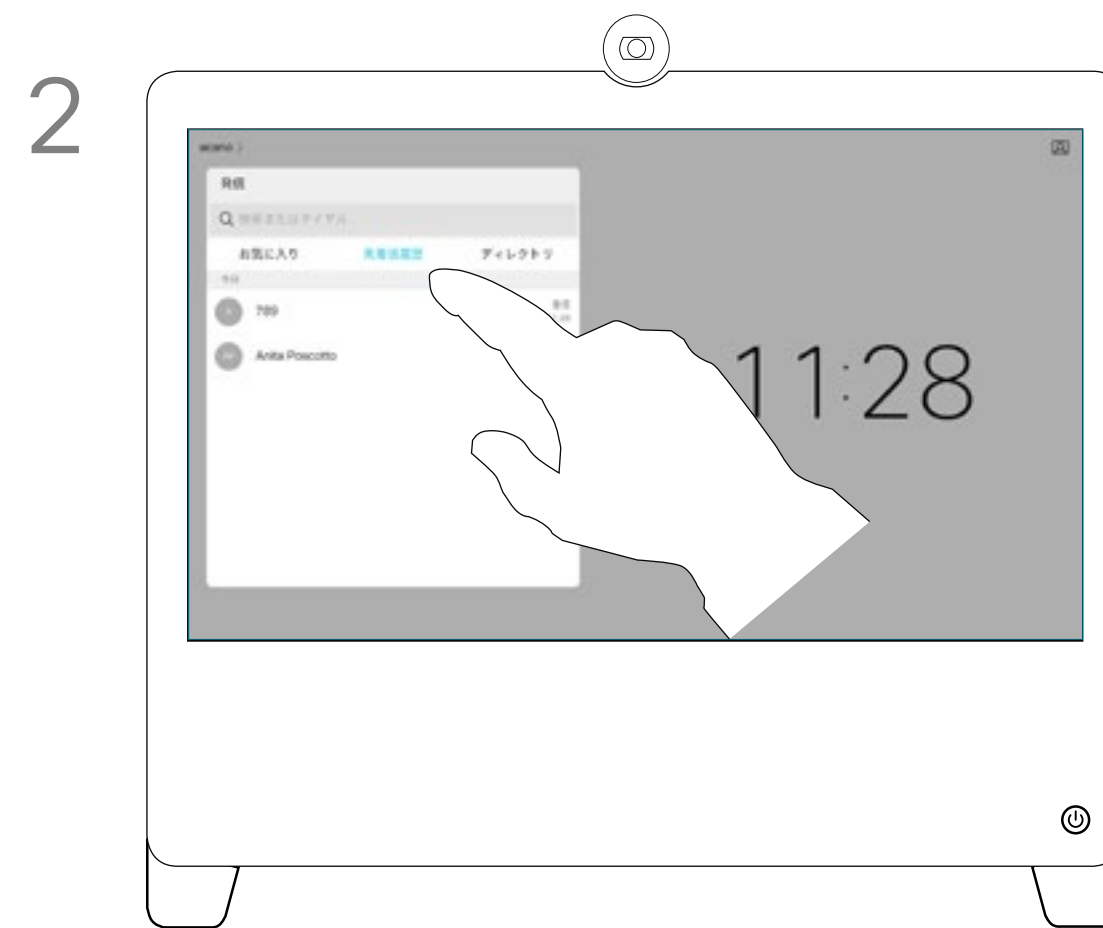


ビデオ電話

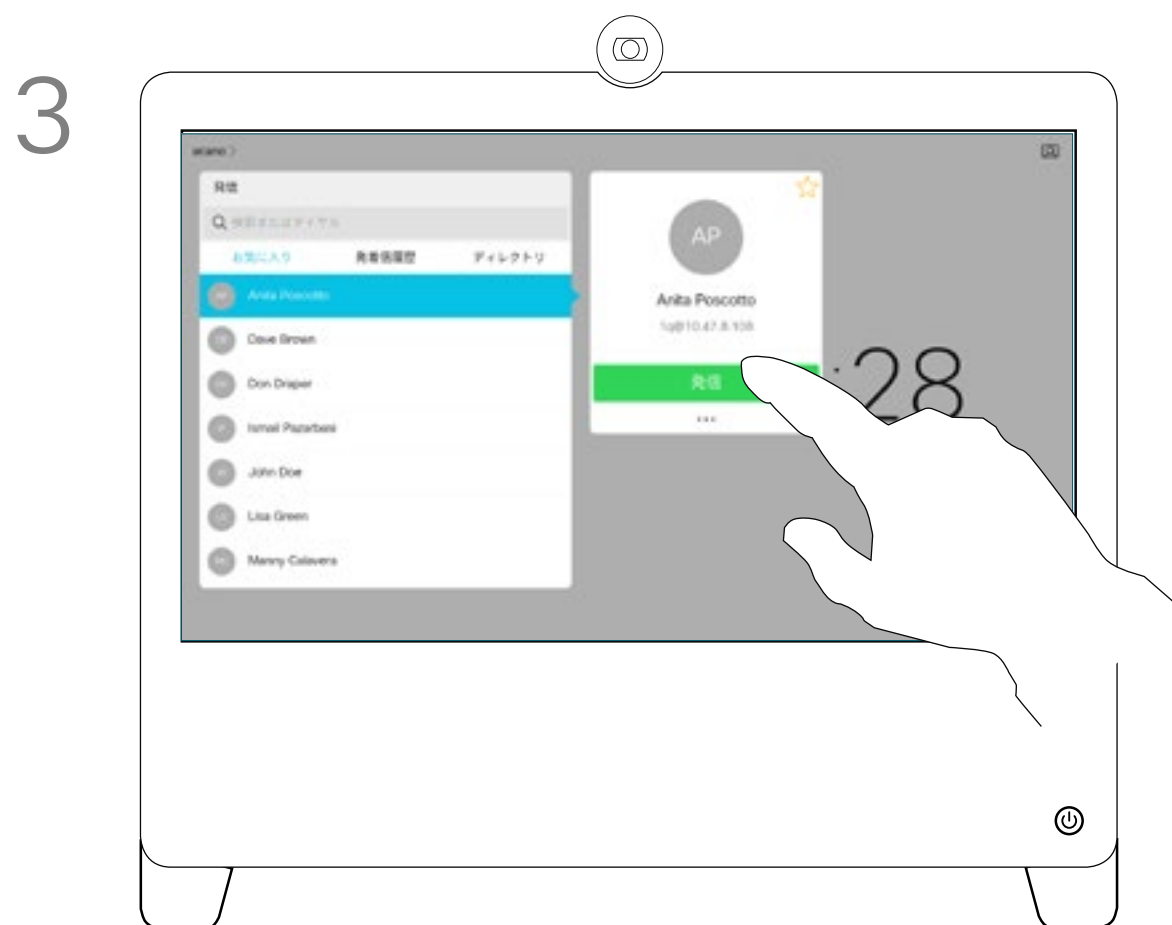
ビデオ電話 連絡先リストから発信する



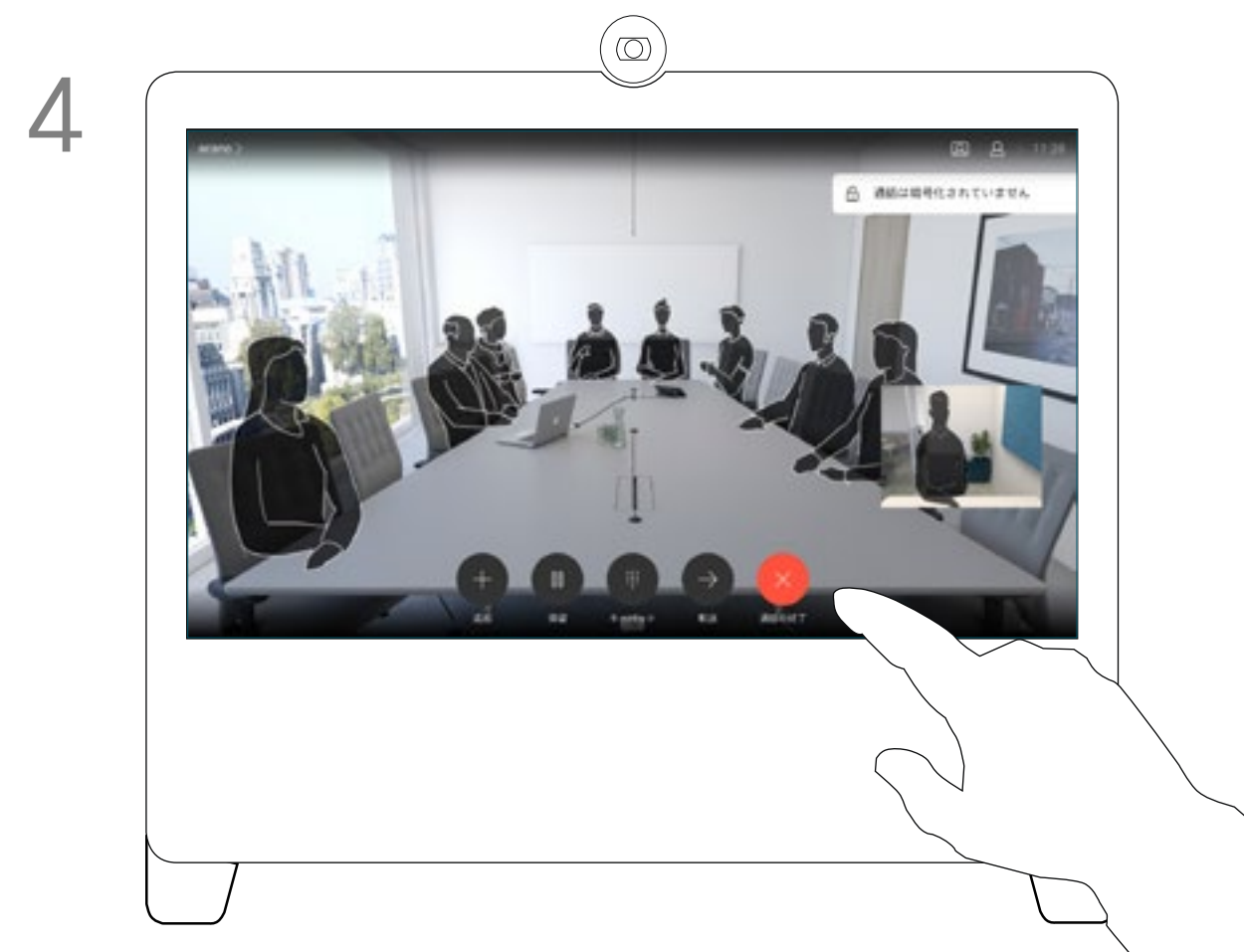
緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



特定のリスト ([お気に入り (Favorites)], [ディレクトリ (Directory)], [発着信履歴 (Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして相手のエントリを探します。



そのエントリをタップすると、緑色の [発信 (Call)] ボタンが表示されます。図のように、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



通話が発信されます。通話を終了するには、赤色の [終了 (End)] アイコンをタップします。

連絡先のリストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要がある人です。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

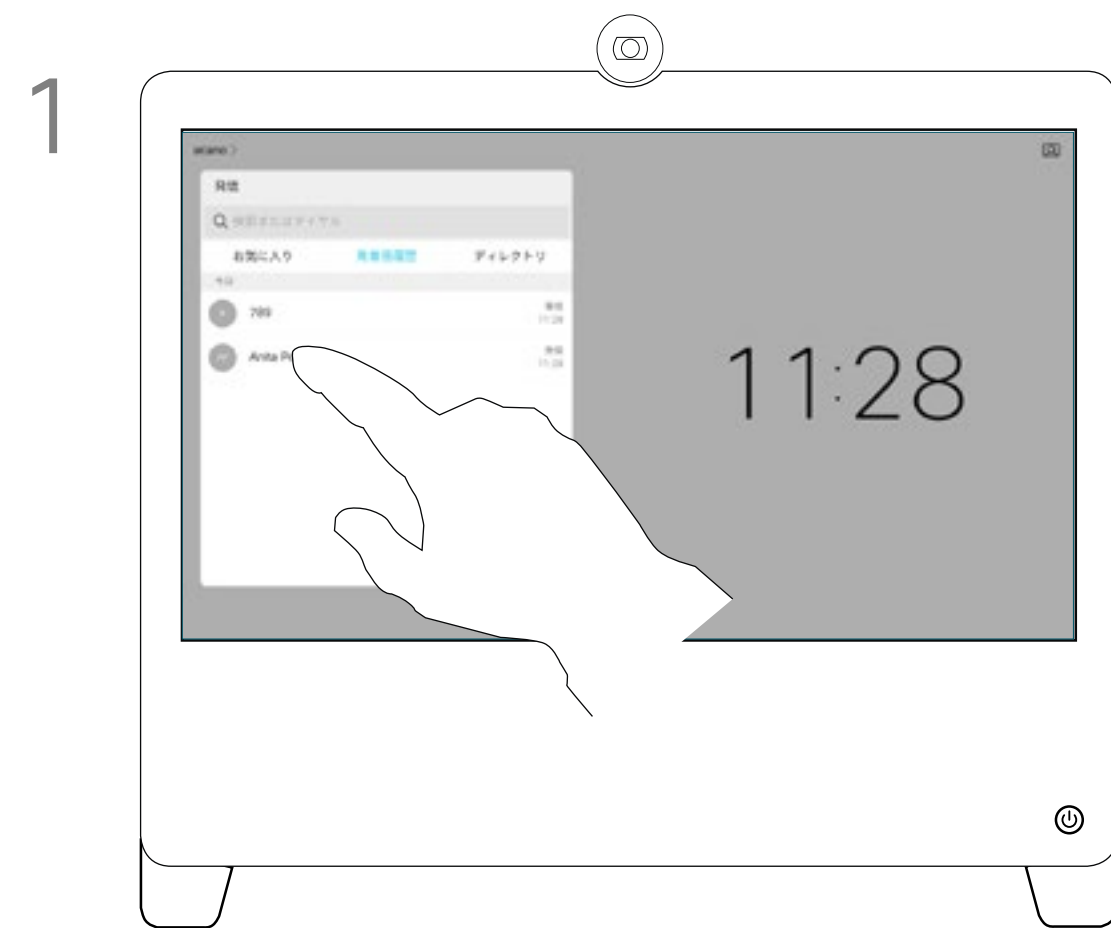
次のオプションが適用されます。

- ・ 名前、番号、または IP アドレスをキー入力できます。これにより、すべてのリストが検索されます。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエントリは、発信の前に編集したり、帯域を変更したりすることができます。

[発着信履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ電話 発信する前に連絡先を編集する

エントリ編集について



1 コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。そのエントリをタップします。[発信 (Call)] メニューが表示されます。



2 緑色の [発信 (Call)] ボタンのすぐ下にあるその他 (...) アイコンをタップします。



3 [編集して通話 (Edit and Call)] をタップします。



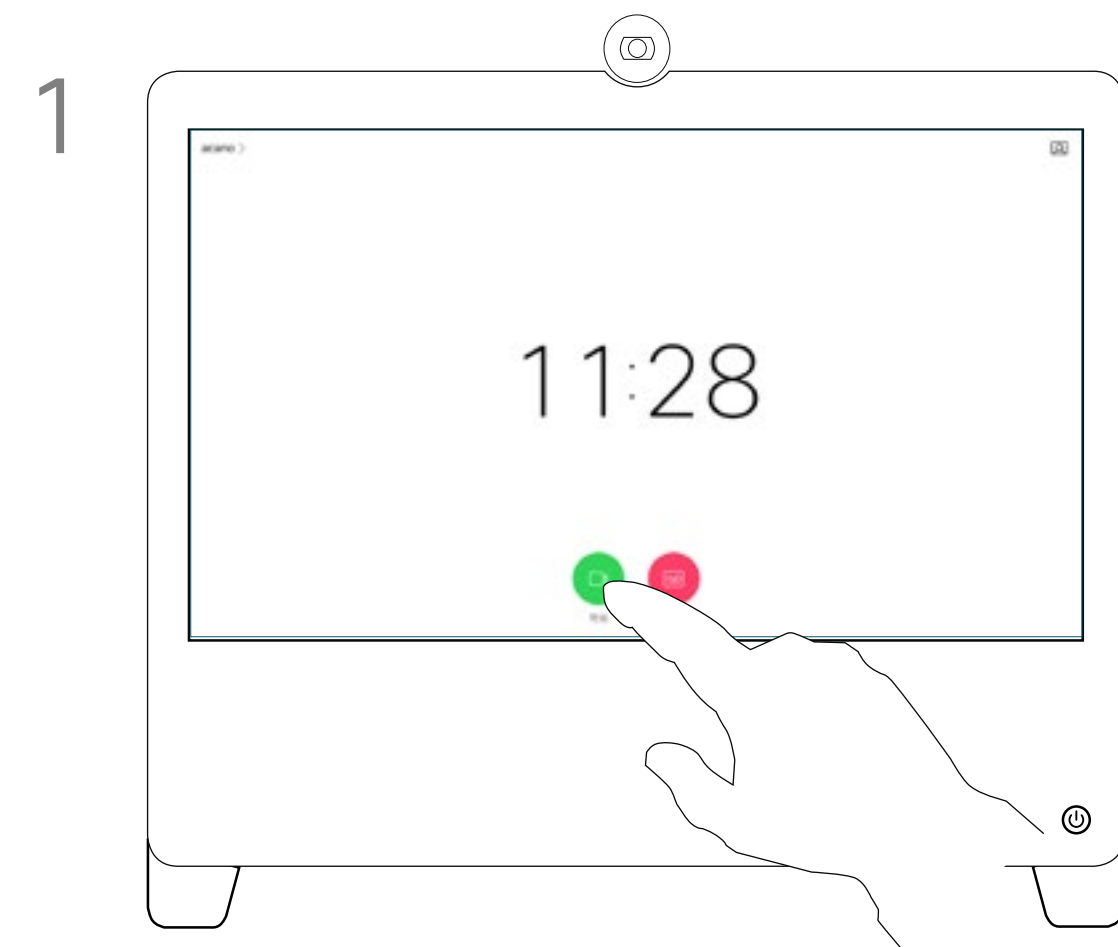
4 キーボードを使って編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

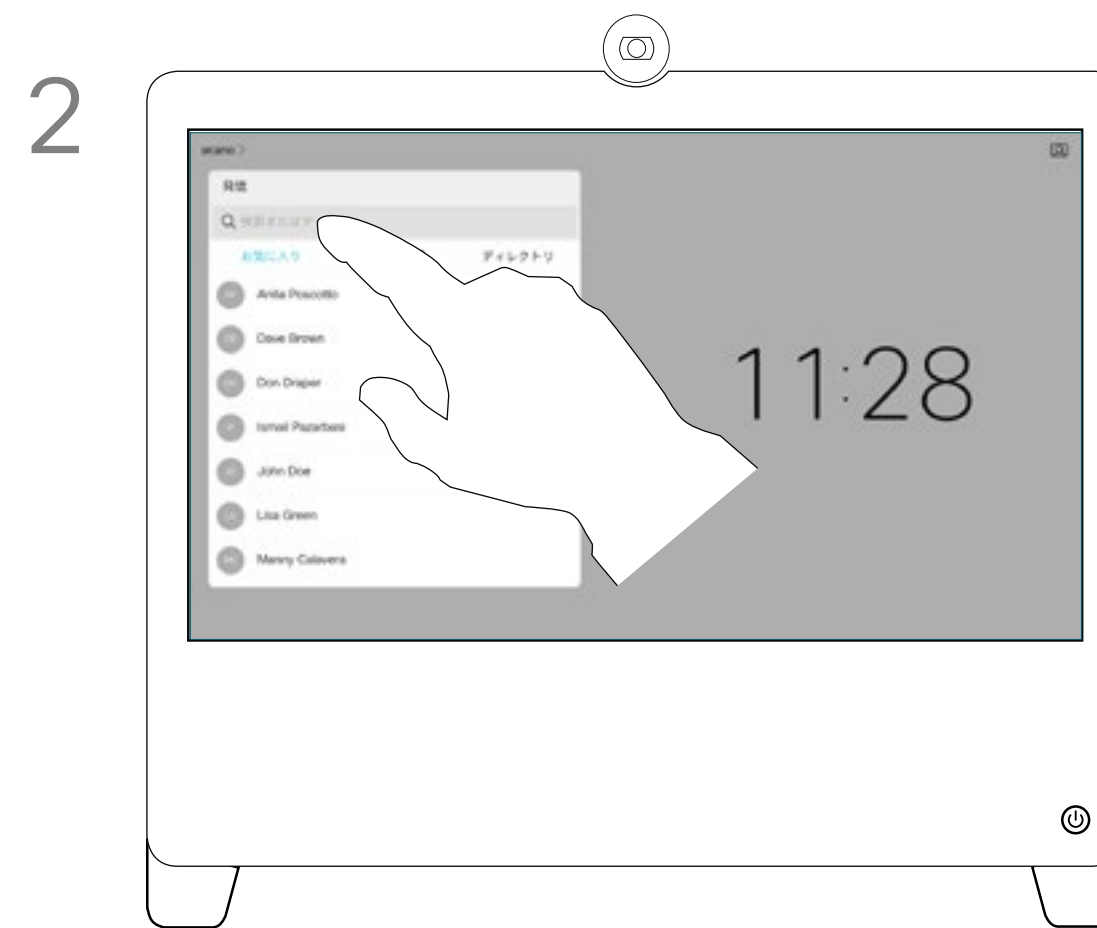
発信する前に、連絡先リストのいずれかのエントリを編集する必要がある場合があります。正常に完了するために、プレフィックスまたはサフィックスを追加したり、エントリを変更したりする必要がある場合があります。

名前、番号、または住所を使用して発信する

発信について



1 緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



2 [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドをタップします。 キーボードが呼び出されます。



3 名前、番号、または住所を入力します。入力に合わせて、一致すると考えられるものや提案が表示されます。正確に一致するものがリストに表示されたらそれをタップします。それ以外の場合は、入力が続けます。



4 通話先を入力し終わるか見つけたら、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先リストにない人に発信するには、ディスプレイに表示される仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

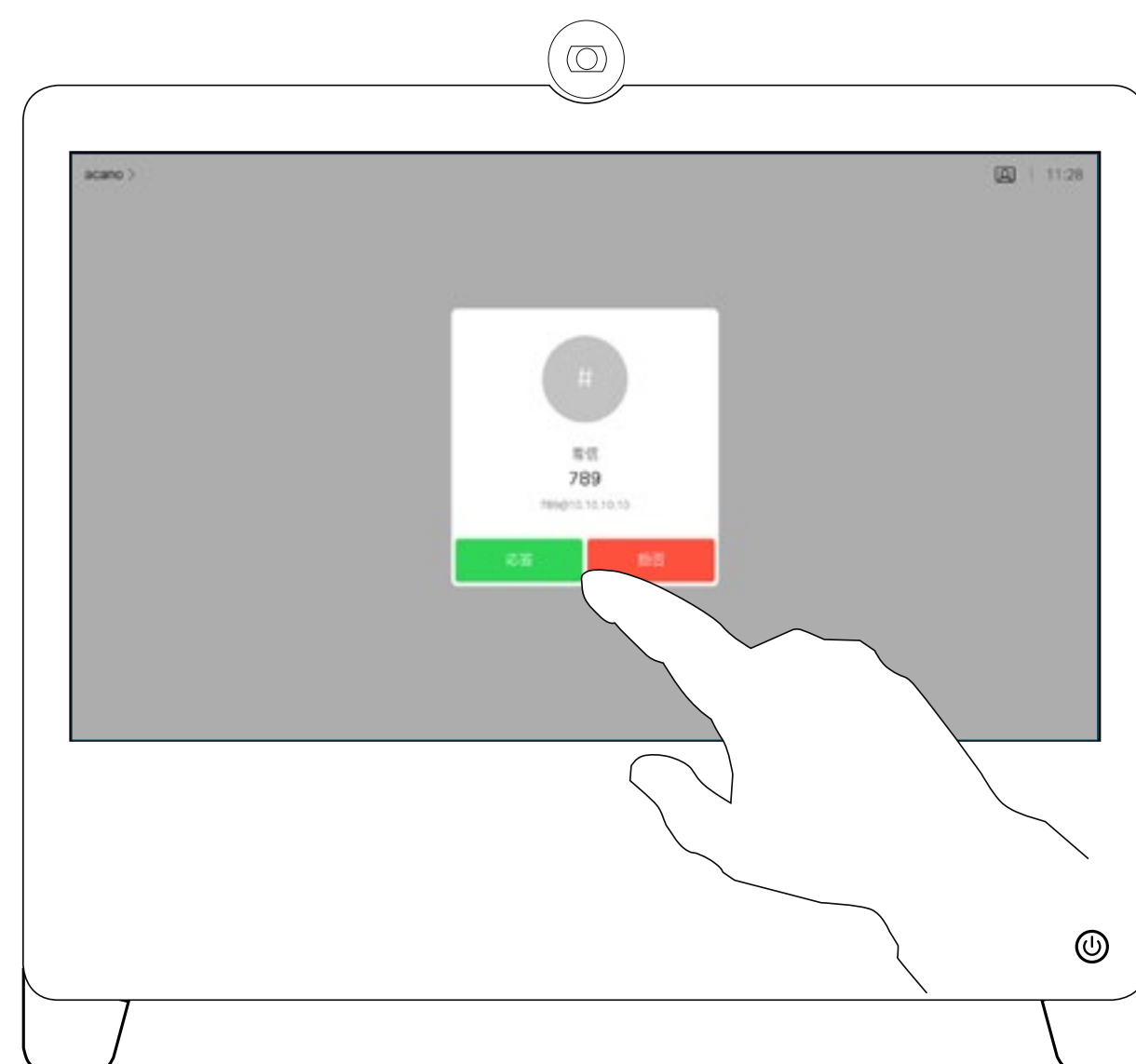
これまでの発信先または着信元がすべて [発着信履歴 (Recents)] リストに表示されます。これらの発信先または着信元は [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

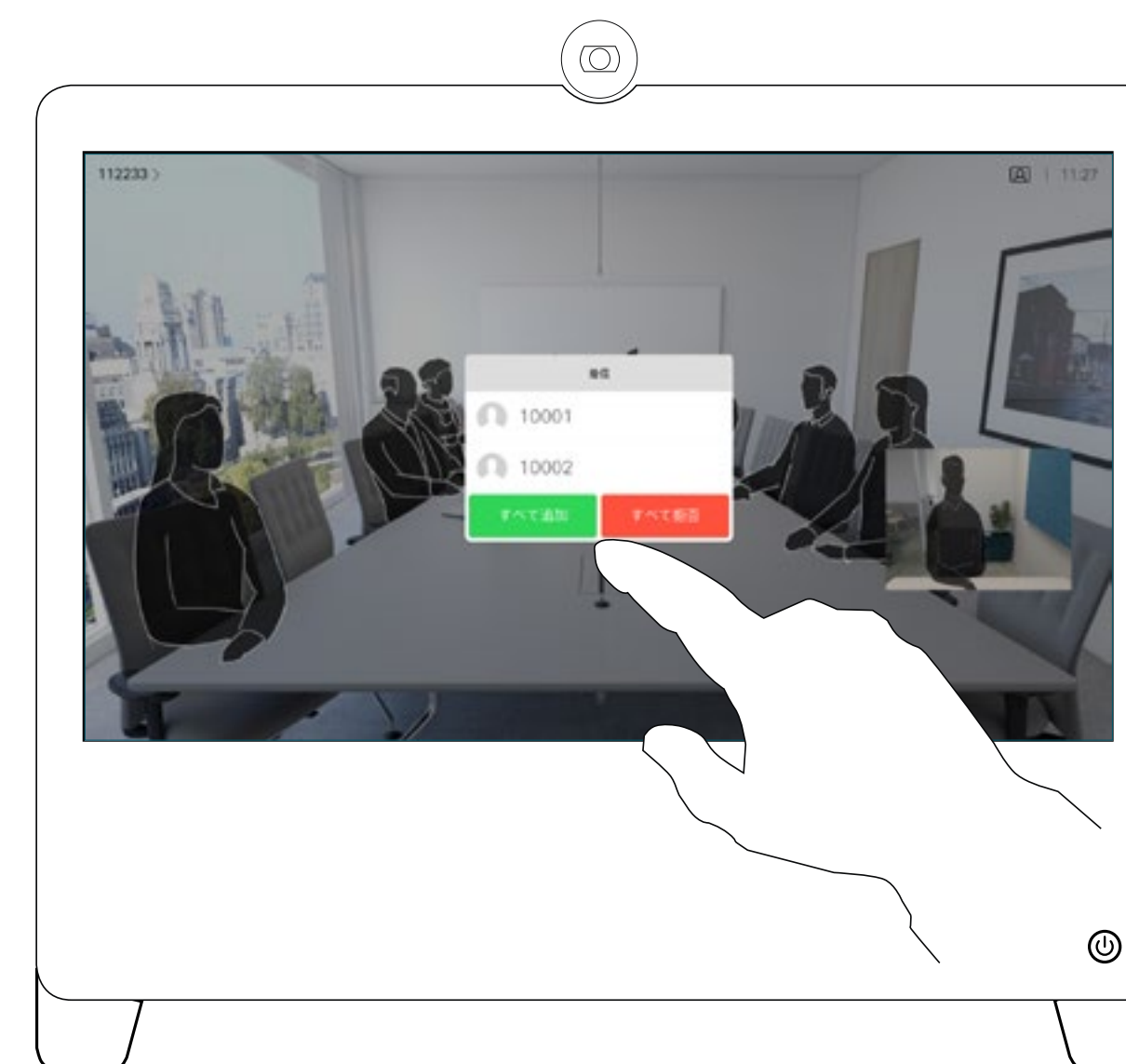
この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[トーン信号 (Touch Tones)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

[発着信履歴 (Recents)] は、Web インターフェイスからのみクリアすることができます。

ビデオ電話 着信コール



着信コールを受け入れる（応答する）か拒否するかに応じてタップします。



ビデオ インフラストラクチャで許可されている場合は、複数の着信を受信できます。それらの着信はすべて既存の通話に追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

着信があった場合

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- ・ ビデオ インフラストラクチャで、複数の着信を受信するようにすることができます。必要に応じてビデオ サポート チームに問い合わせてください。

ビデオ電話 通話中に別の通話に応答する

オプションについて

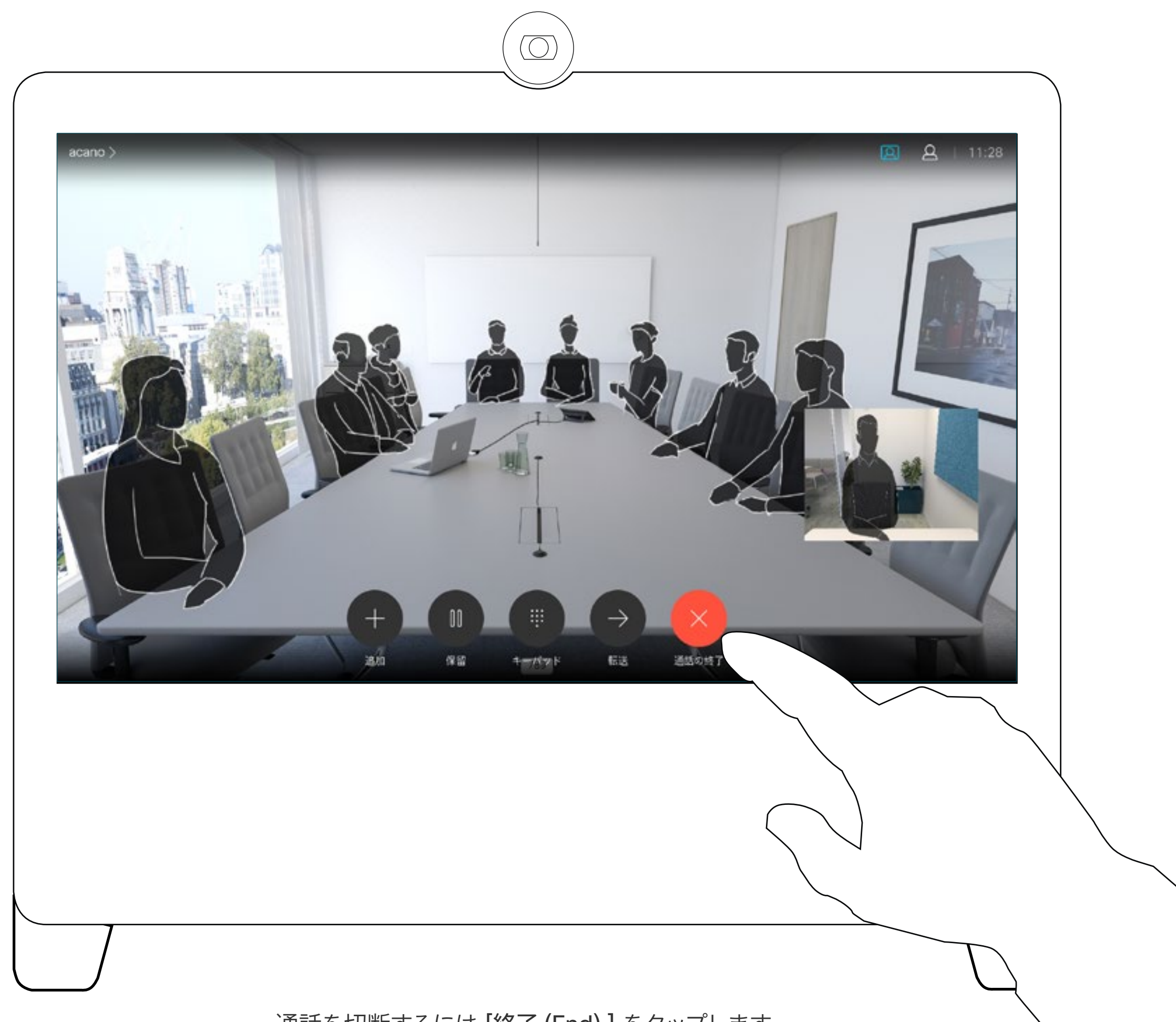
特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



ビデオ電話 通話を切断する

切断について

通話中に [終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。2 つの相手のみと通話中の場合、これにより、通話が終了されます。



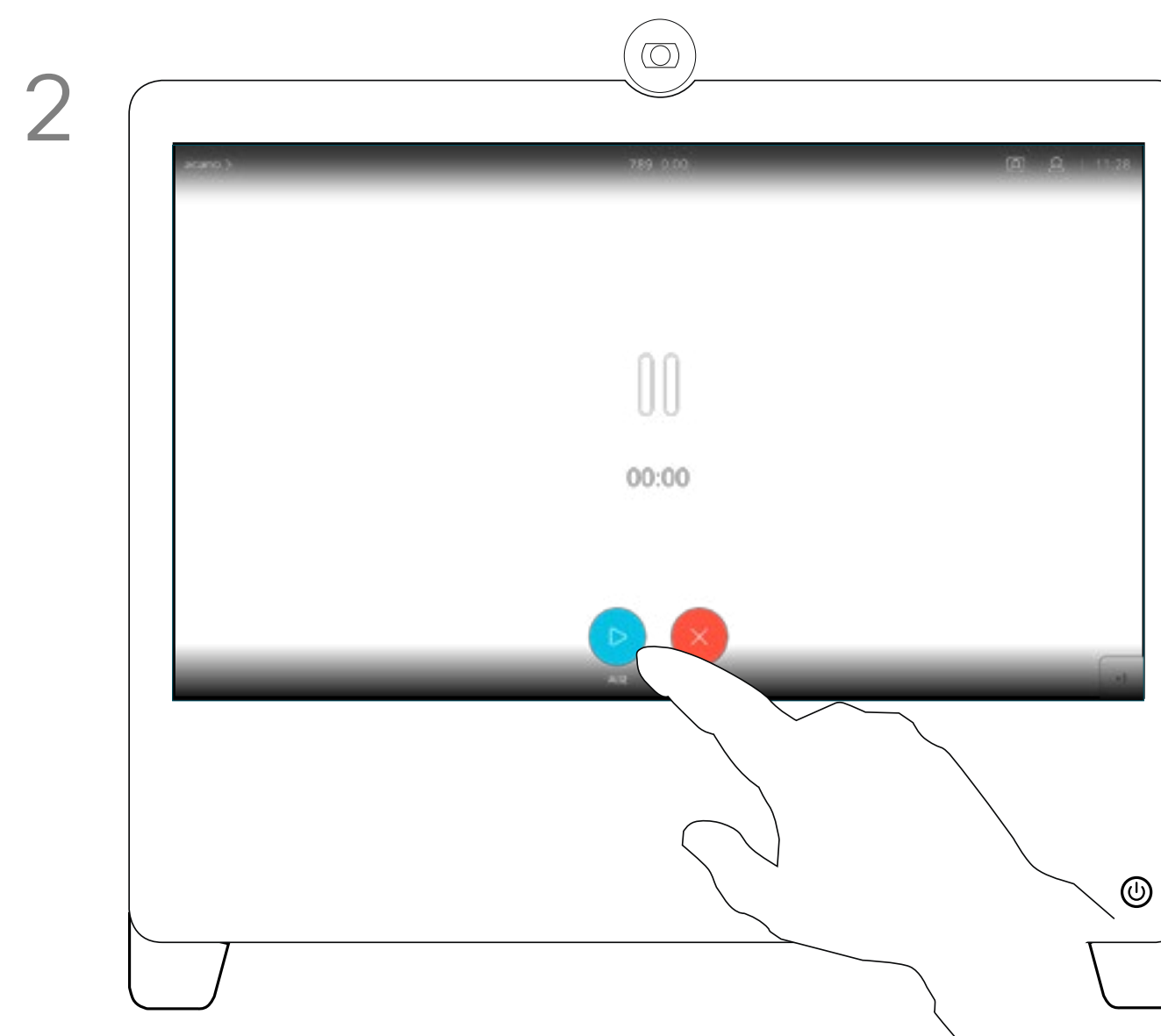
通話を切断するには [終了 (End)] をタップします。

通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について



通話中に [保留 (Hold)] をタップします。



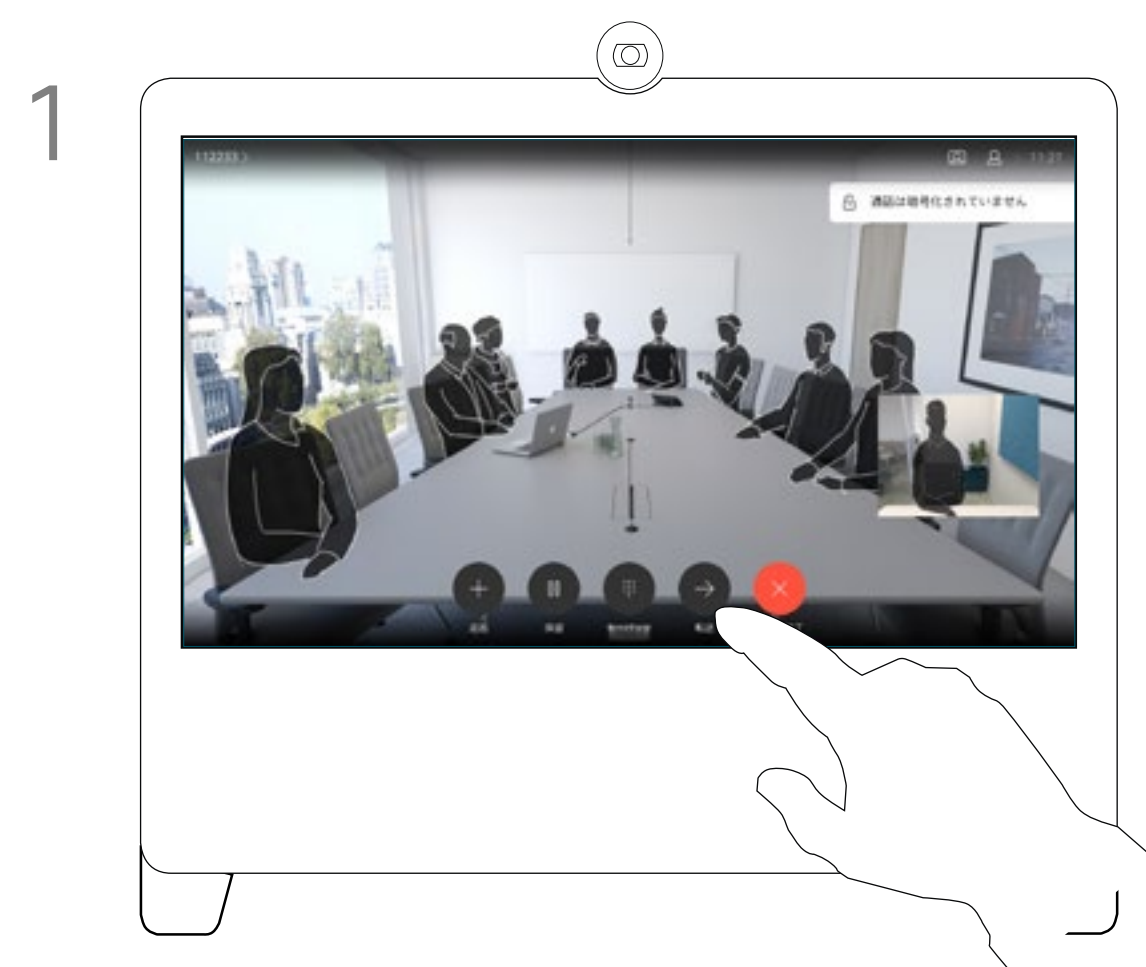
[再開 (Resume)] をタップして、通話状態にあった相手に戻ります (元の操作に戻ります)。

通常、相手を保留にする操作は、誰かを他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。

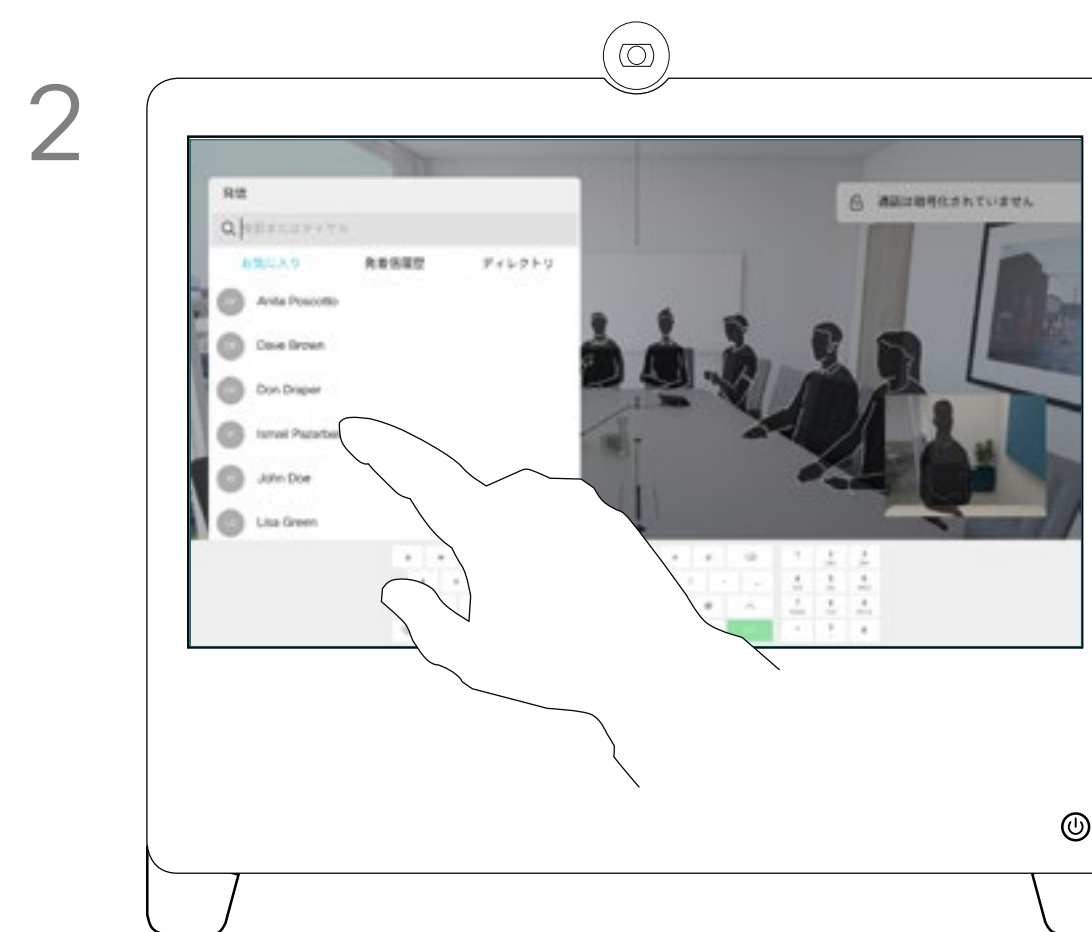
ビデオ電話 対応中の通話の転送

転送について

対応中の通話を別のの人に転送することができます。転送する場合には必ず打診します。つまり、転送する前に転送先の人と話することができます。



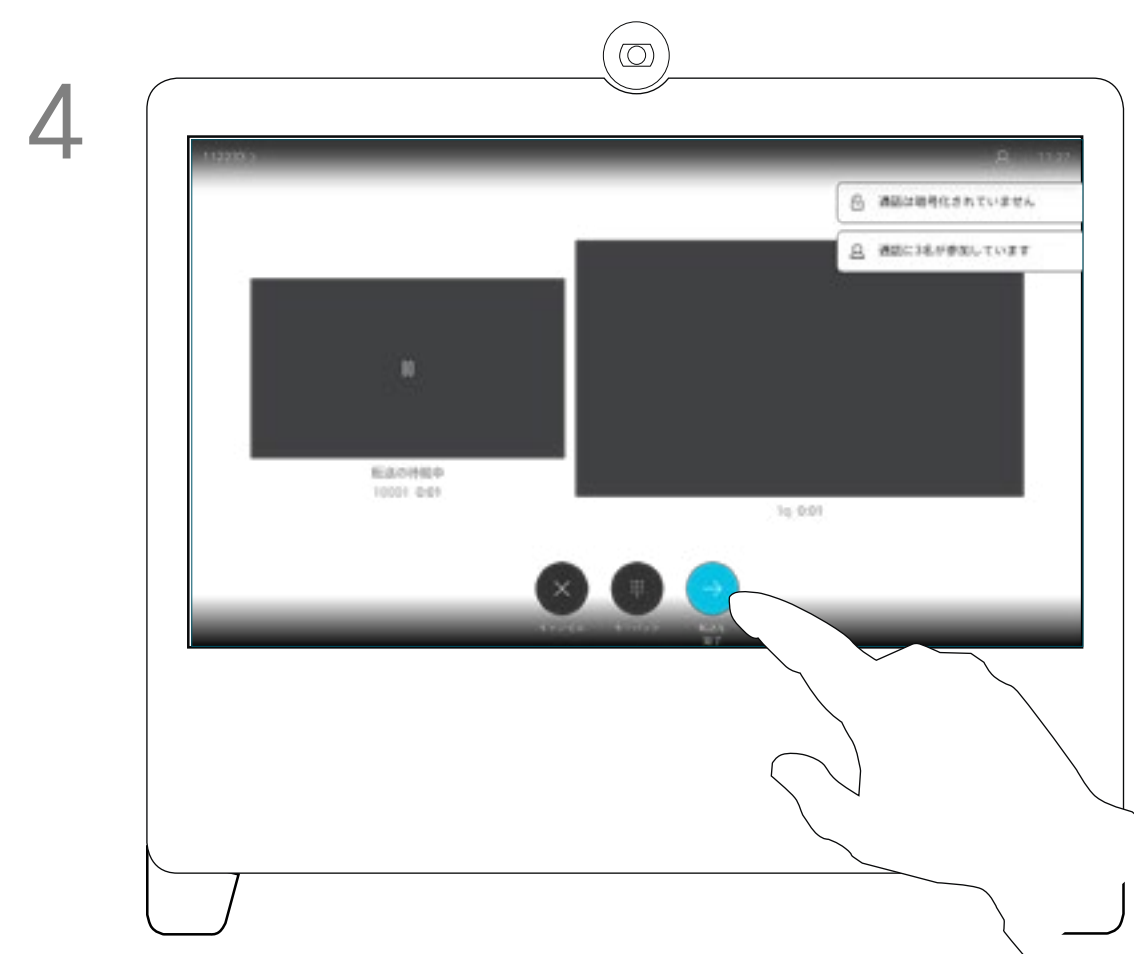
1 [転送 (Transfer)] ボタンをタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



2 通常の方法で、発信先を探します。



3 緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送する相手は保留のままです。



4 [転送完了 (Complete Transfer)] をタップします。

ビデオ電話 帯域を変更する

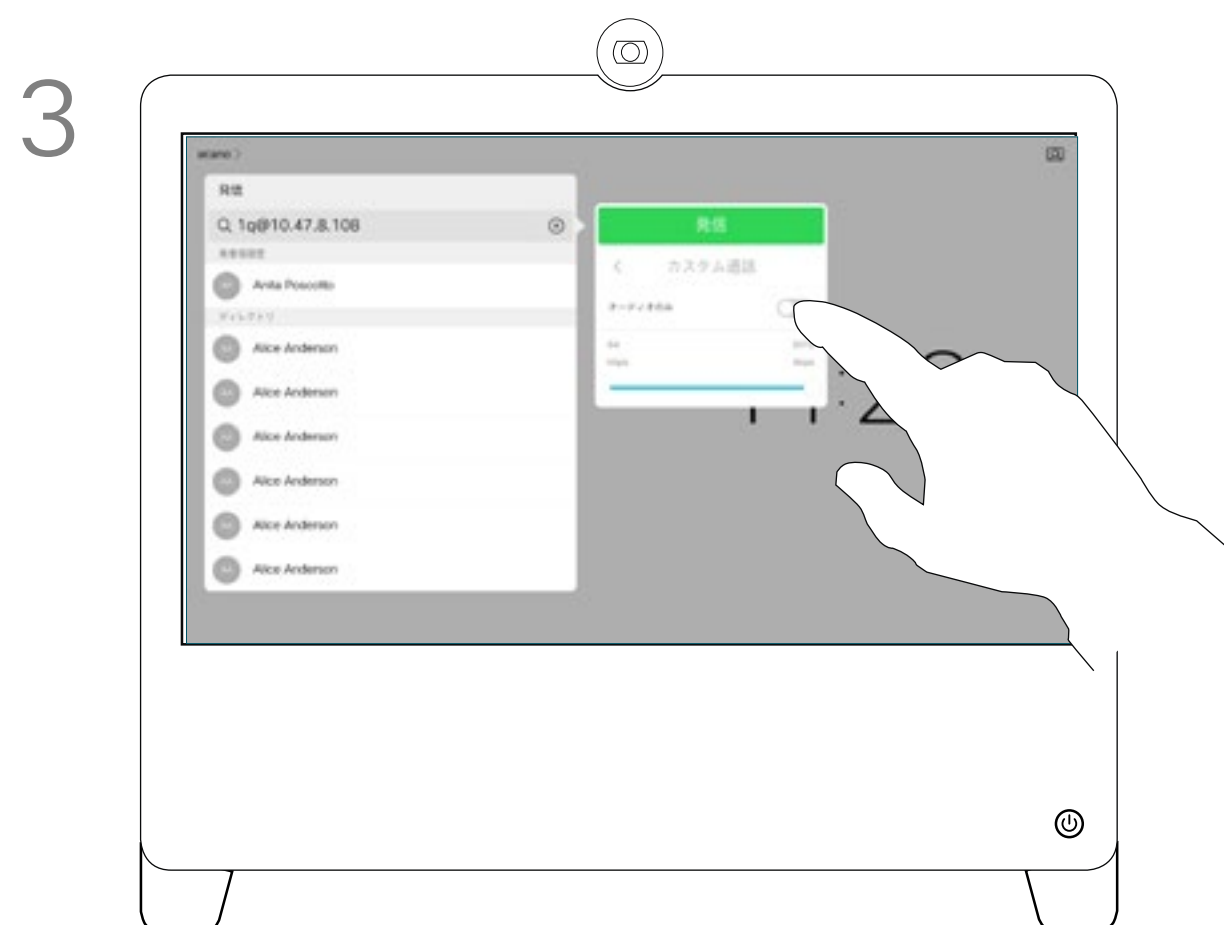
帯域について



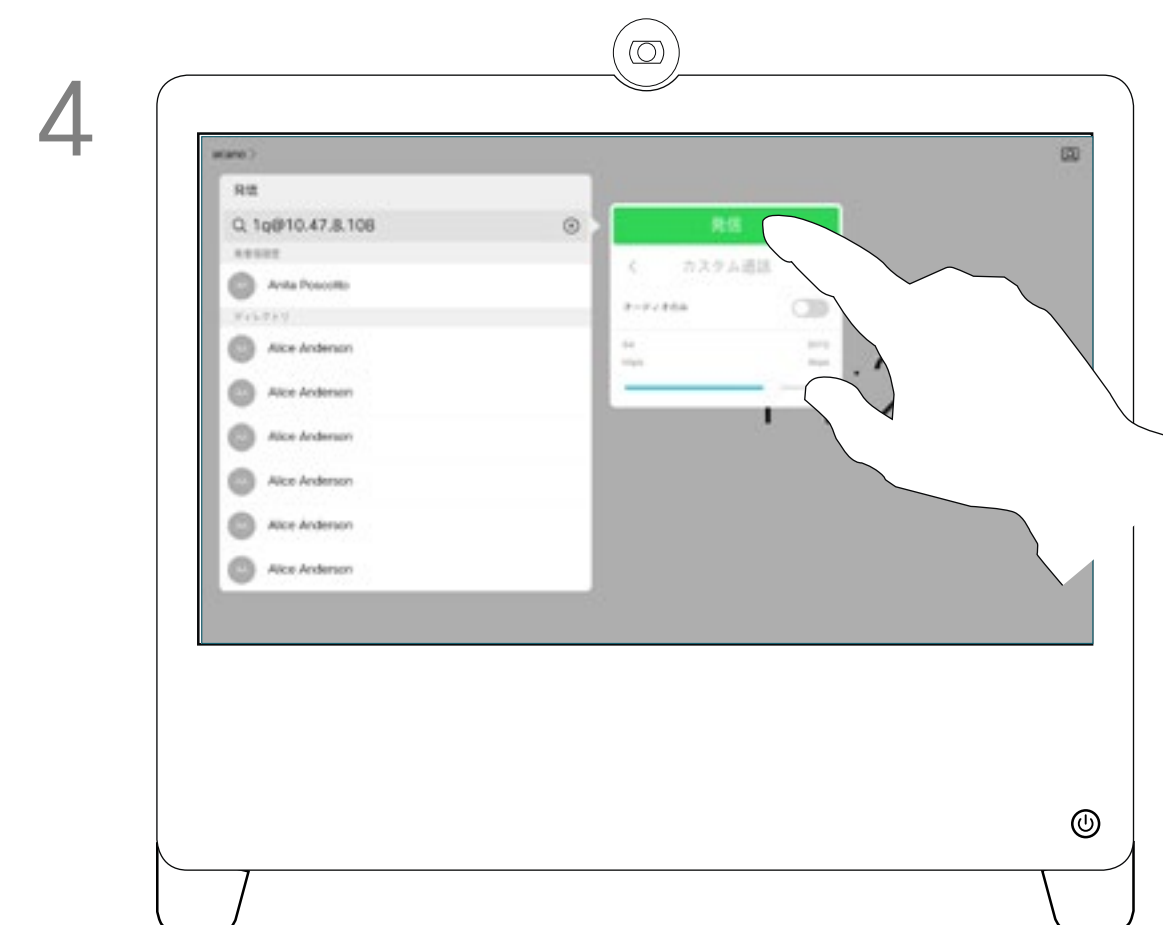
【発信 (Call)】ボタン (図示せず) をタップして、帯域を変更するエントリ (図示せず) を特定します。このエントリをタップすると、【発信 (Call)】メニューが表示されます。それから、緑色の【発信 (Call)】ボタンの下にある、その他 (...) アイコンをタップします。



【カスタム発信 (Custom call)】をタップします。



必要な設定にスライダを移動します。



緑色の【発信 (Call)】ボタンをタップして発信します。

帯域は、通話に割り当てられている帯域幅の量を表す際に使用される用語です。これは kbps (キロビット/秒) で測定されます。

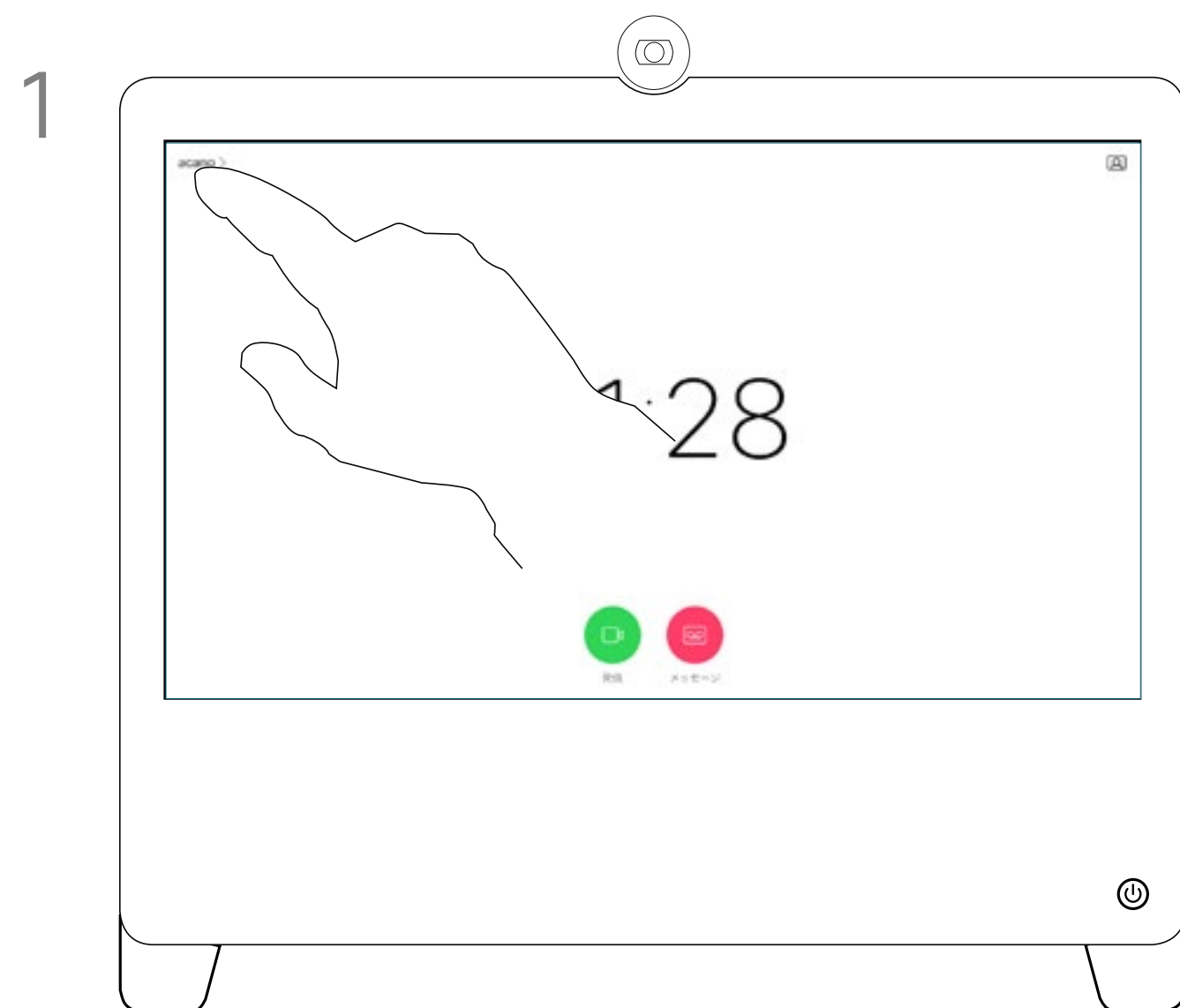
帯域が大きくなるほど、品質が向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

システムには、デフォルトの帯域が設定されています。通常、この帯域は、ビデオサポート チームによって設定されます。通常の条件では、帯域は必要に応じてシステムによって自動的に調整されます。この調整は、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で誰かと通話しようとするときにビデオ通話のチョークを避けるために行われます。

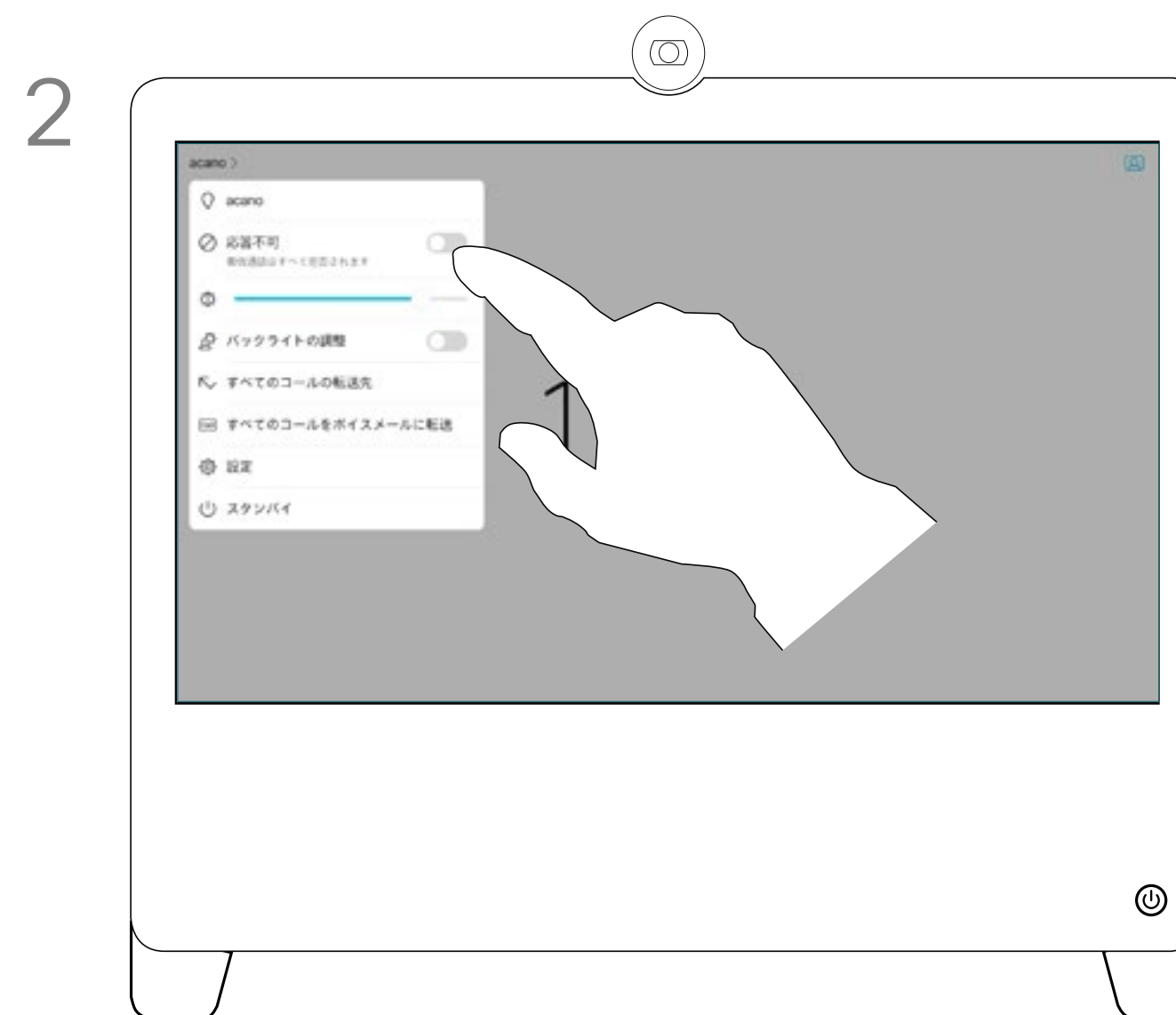
何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

通話中に帯域を変更することはできませんが、左で示されているとおり、発信の直前に変更することはできます。

ビデオ電話 応答不可を有効にする



図のように、左上隅をタップします。



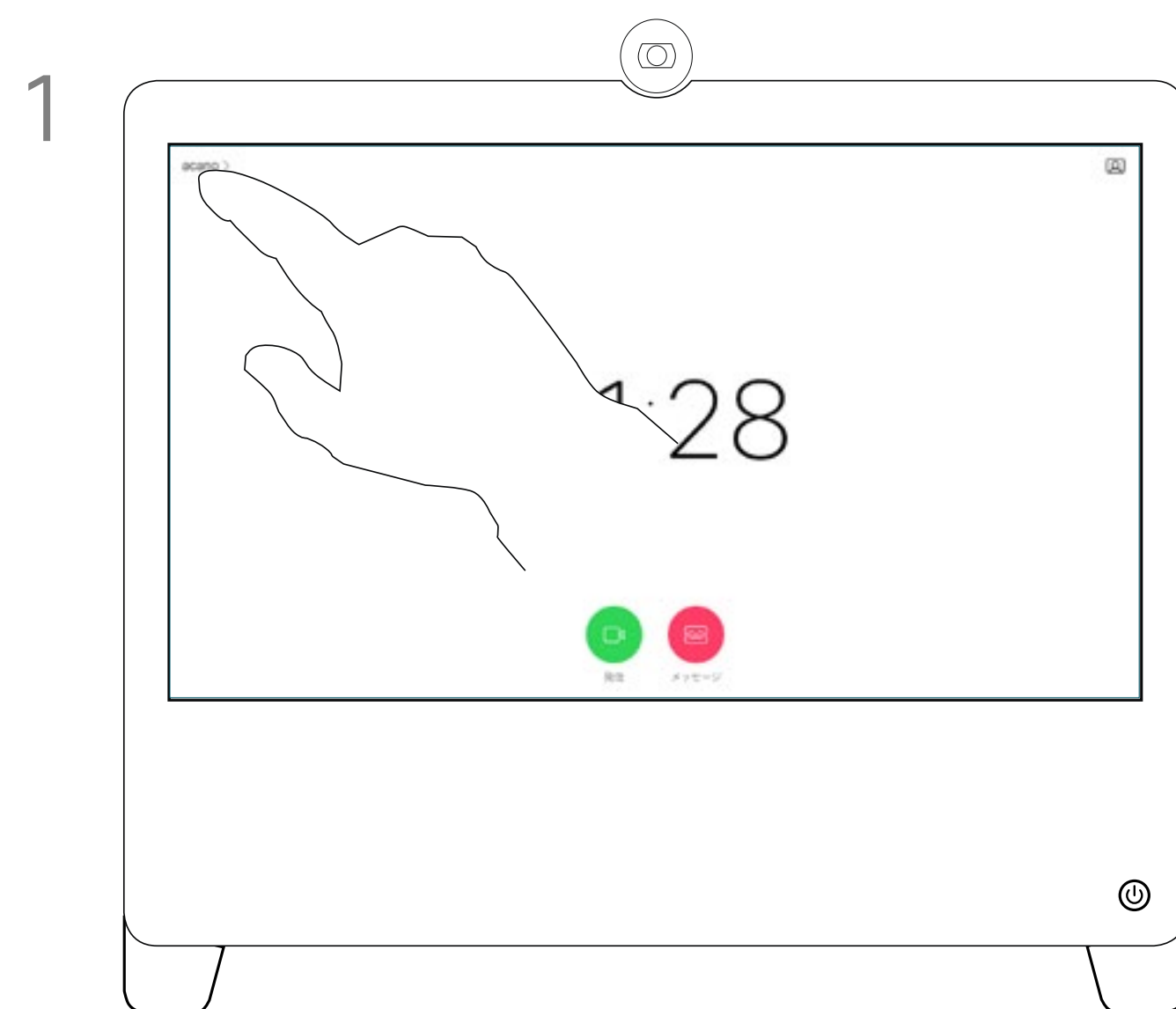
[応答不可 (Do not disturb)] をタップして、この機能を有効化します。無効化するには、もう一度タップします。

応答不可について

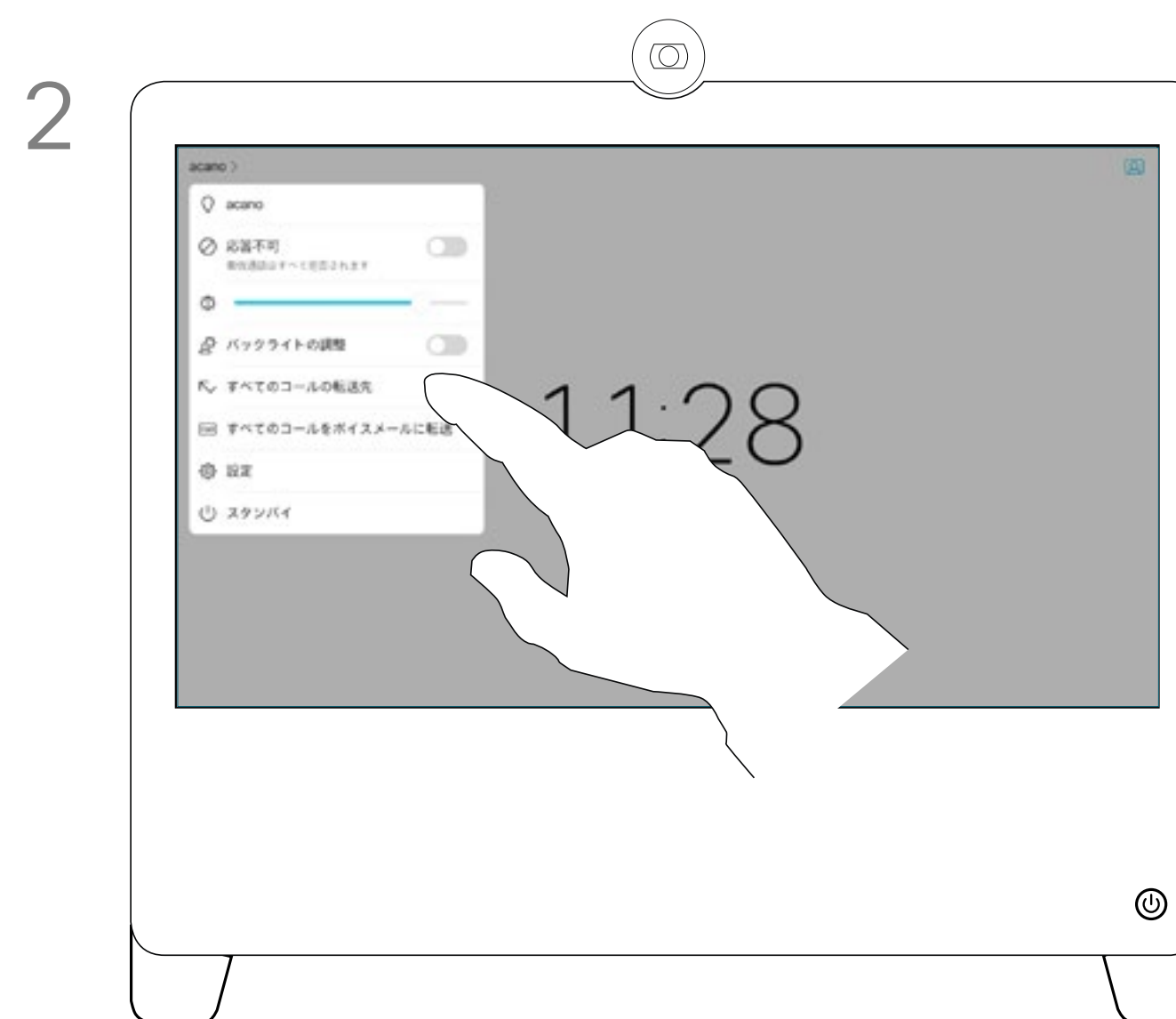
着信に応答しないように、システムを設定することができます。ただし、他者に自由に発信するためにこれを使用することもできます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ電話 すべての通話の自動転送



図のように、左上隅をタップします。



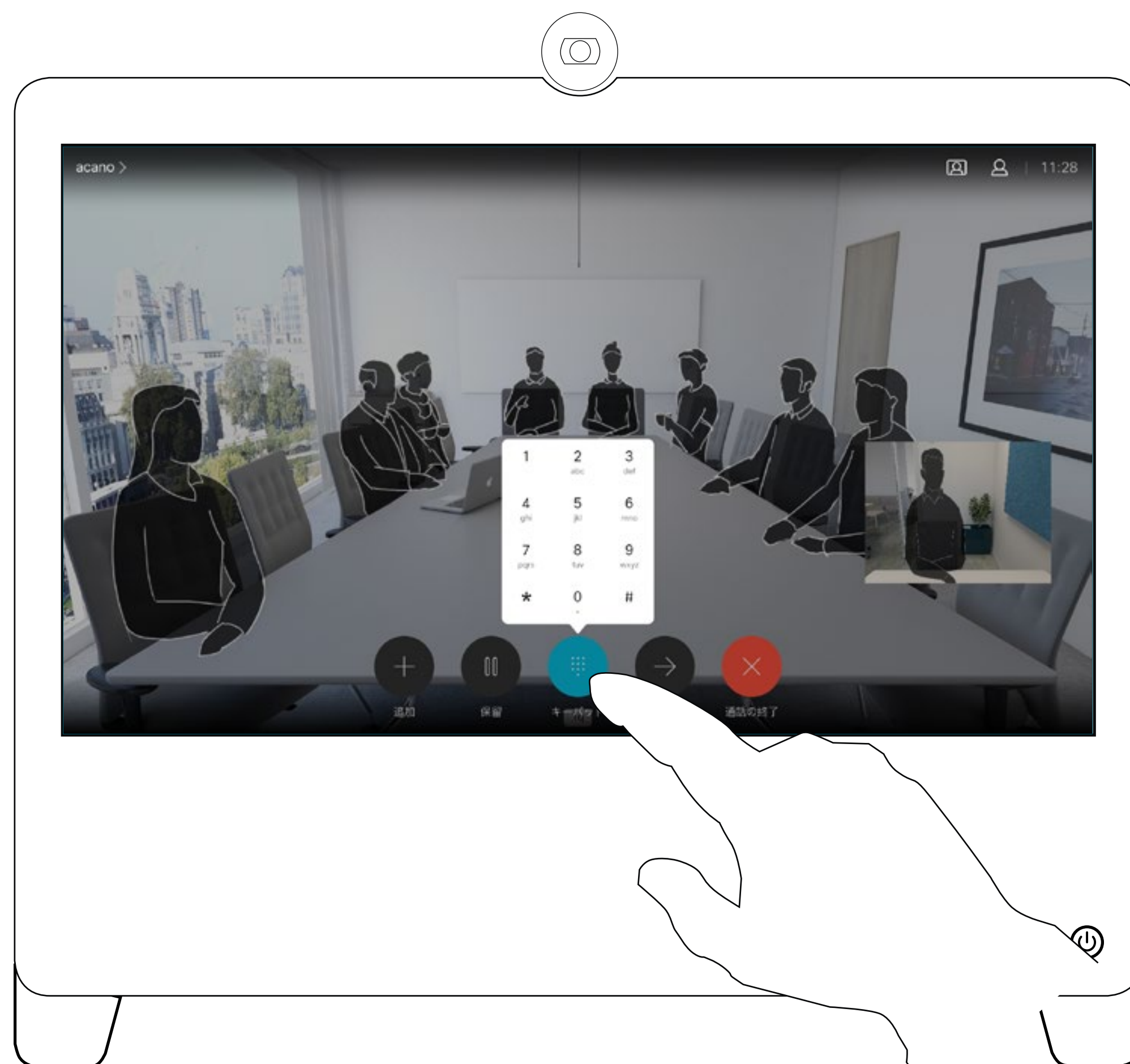
受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

通話の転送について

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

[すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] をタップすると、いつもの [発信 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオ電話 通話中にキーパッドを表示する



通話中に [トーン信号 (Touch Tones)] をタップすると、
ダイヤルパッドが呼び出されます。

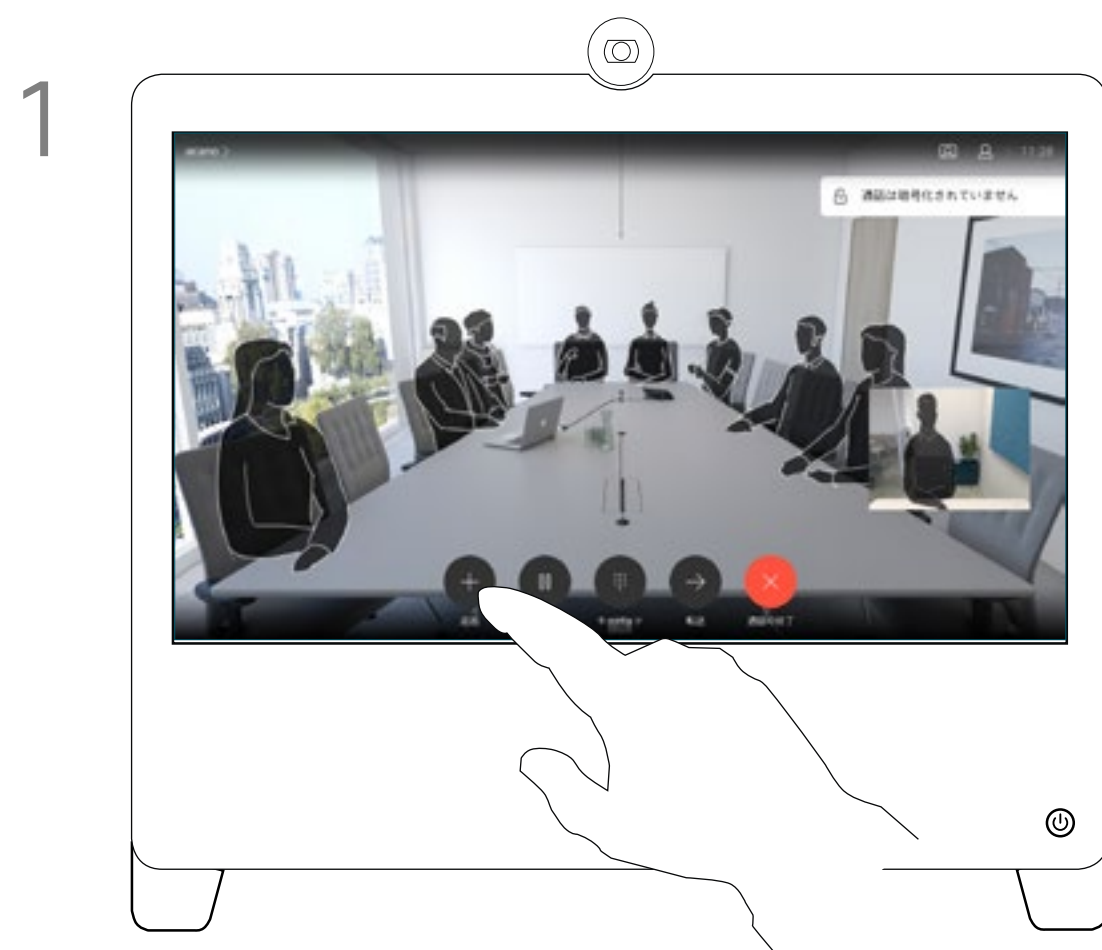
通話中のキーパッド の使用

通話中に、内線にアクセスできるようにしたり、(暗証番号コードなどで) 何かに入る資格を得たりするために、番号を送信するように要求される場合があります。

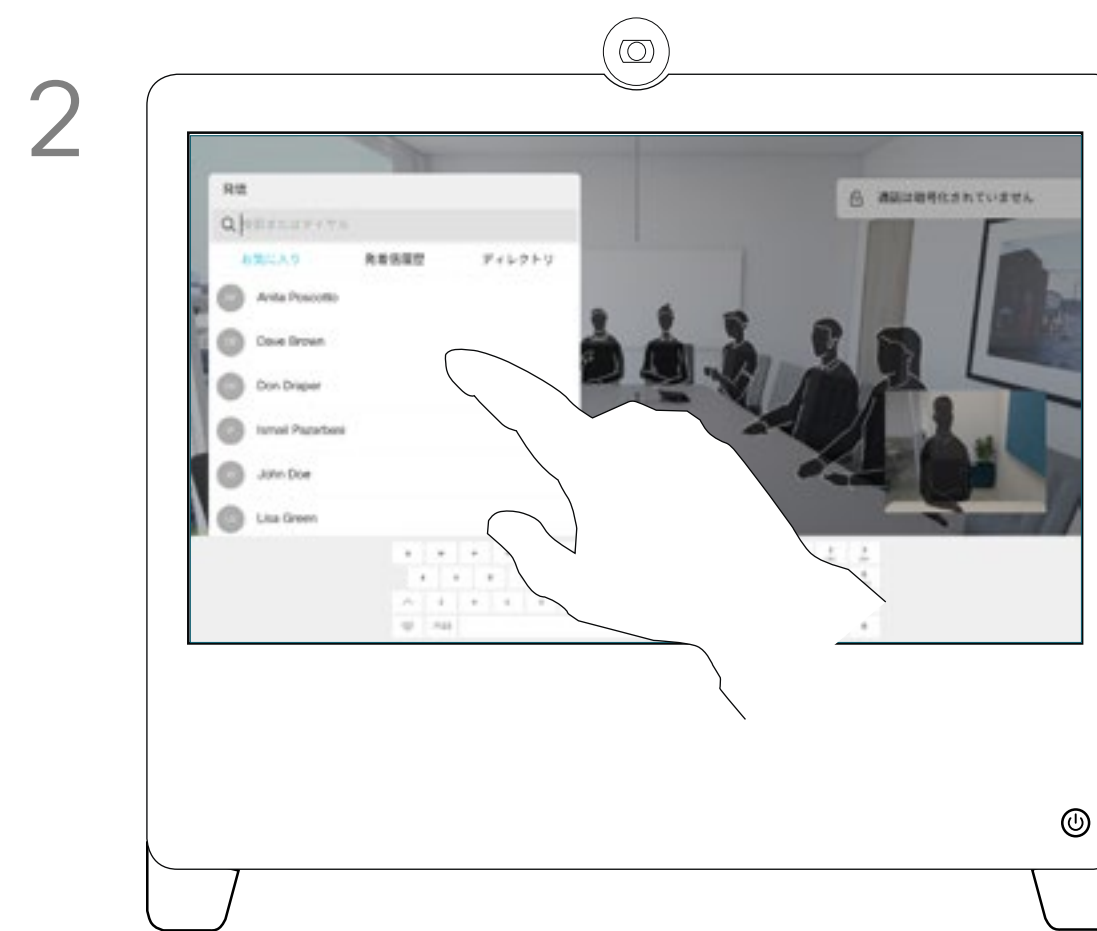
これを送信できるようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。

ビデオ電話 既存の通話に参加者をさらに追加する

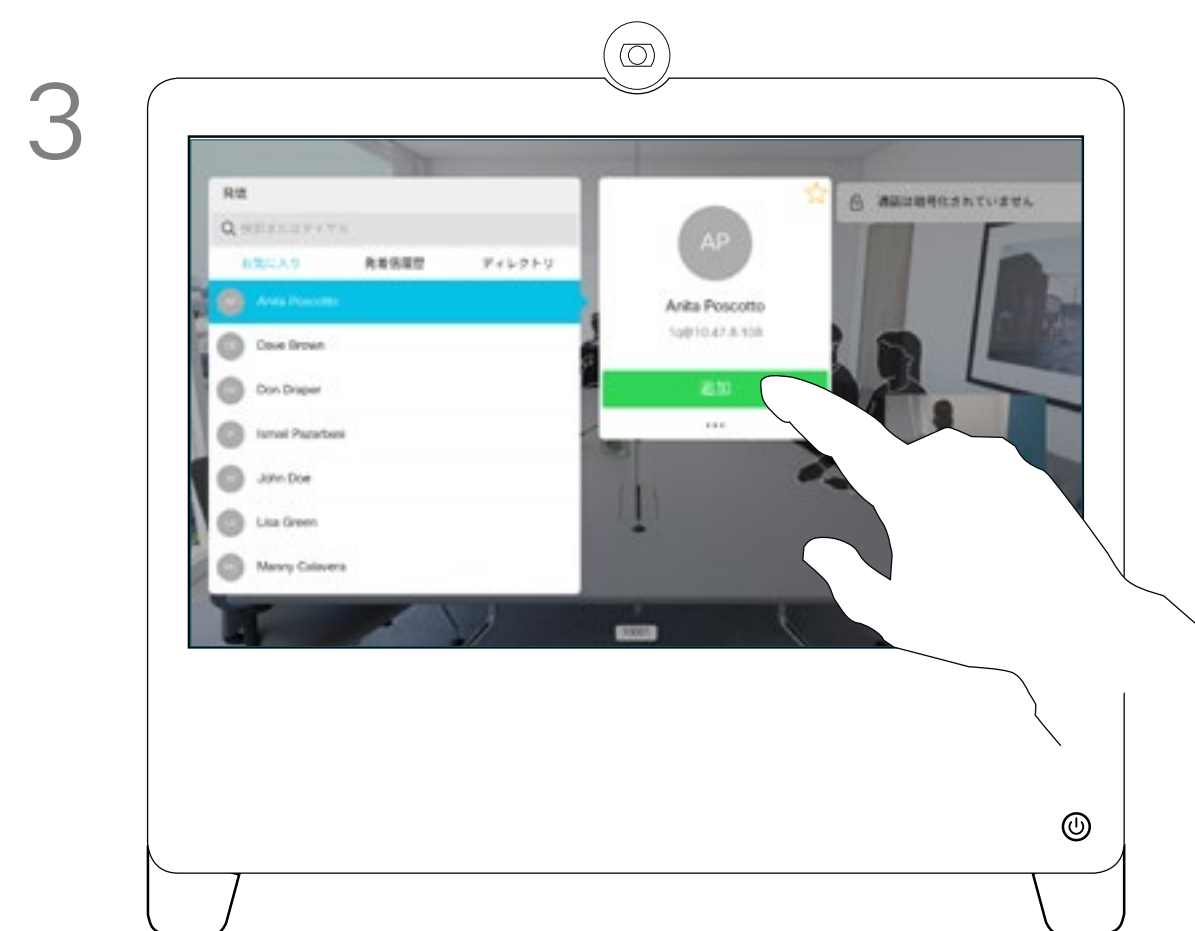
ビデオ会議について



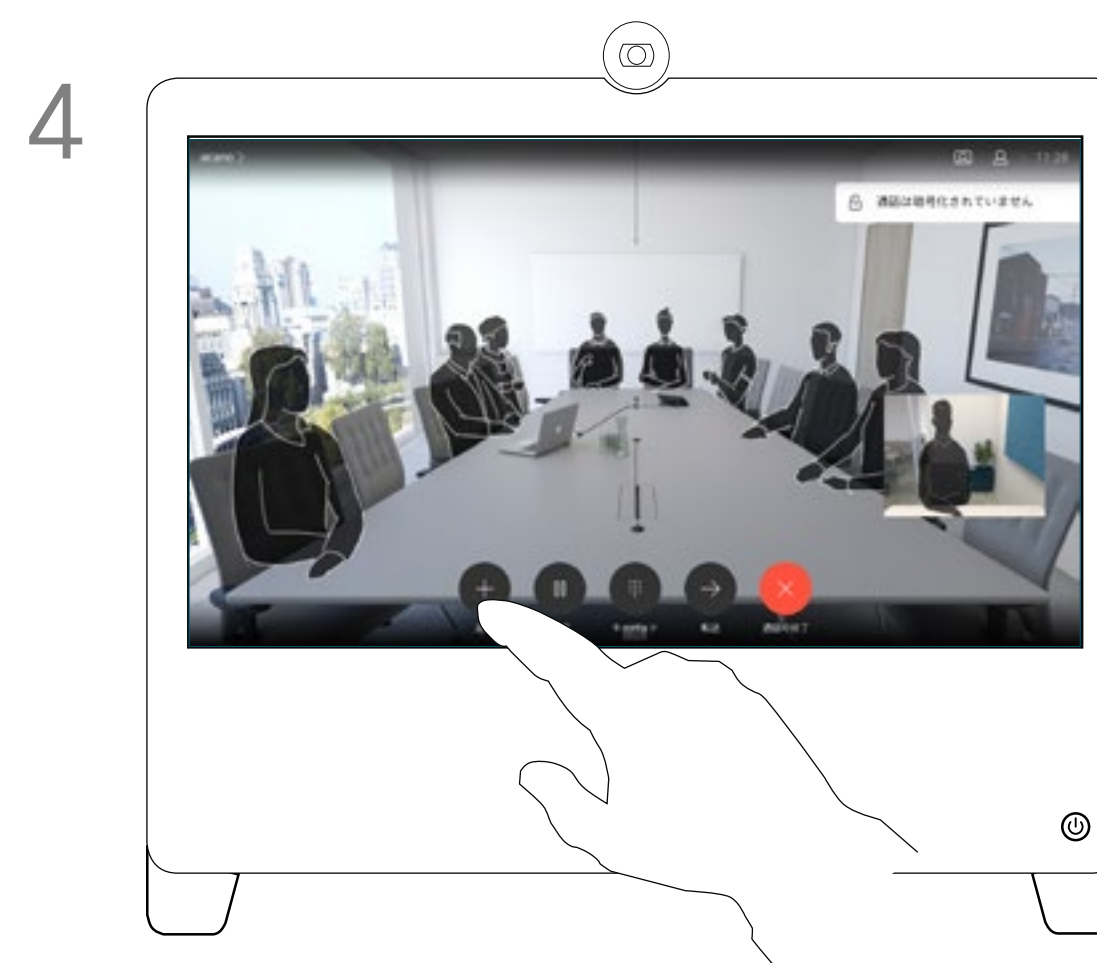
通話中に [追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の通話設定を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



この新しい通話が既存の通話に追加され、会議が確立されました。

ビデオ インフラストラクチャの許容する範囲で、この手順を繰り返すことができます。

ご使用のビデオ システム ネットワークには、複数の参加者間でビデオ会議を開始する機能が用意されています。

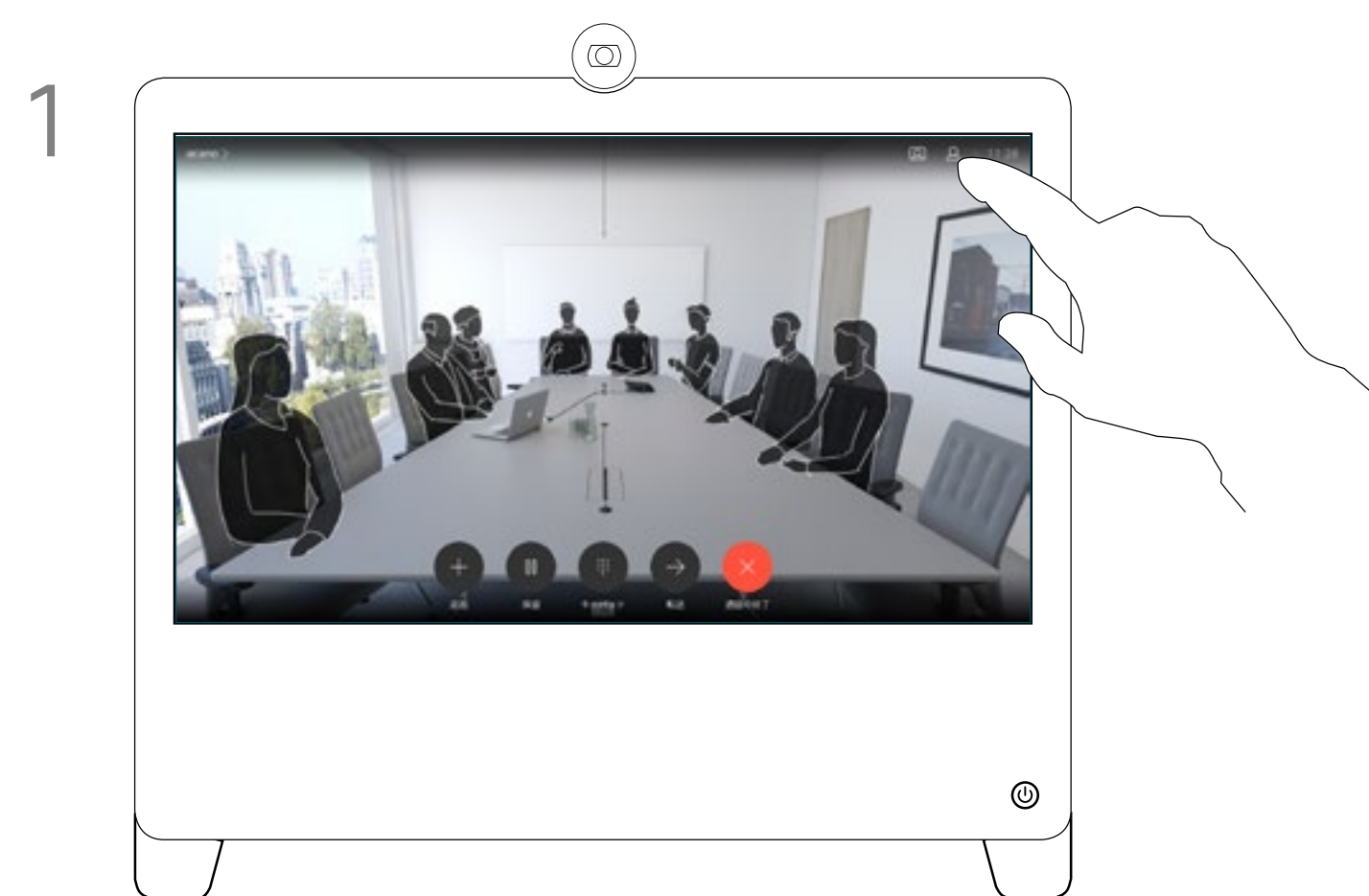
ビデオ システムがサポートしている参加者の最大数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって異なります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に1人ずつ発信する必要があります。

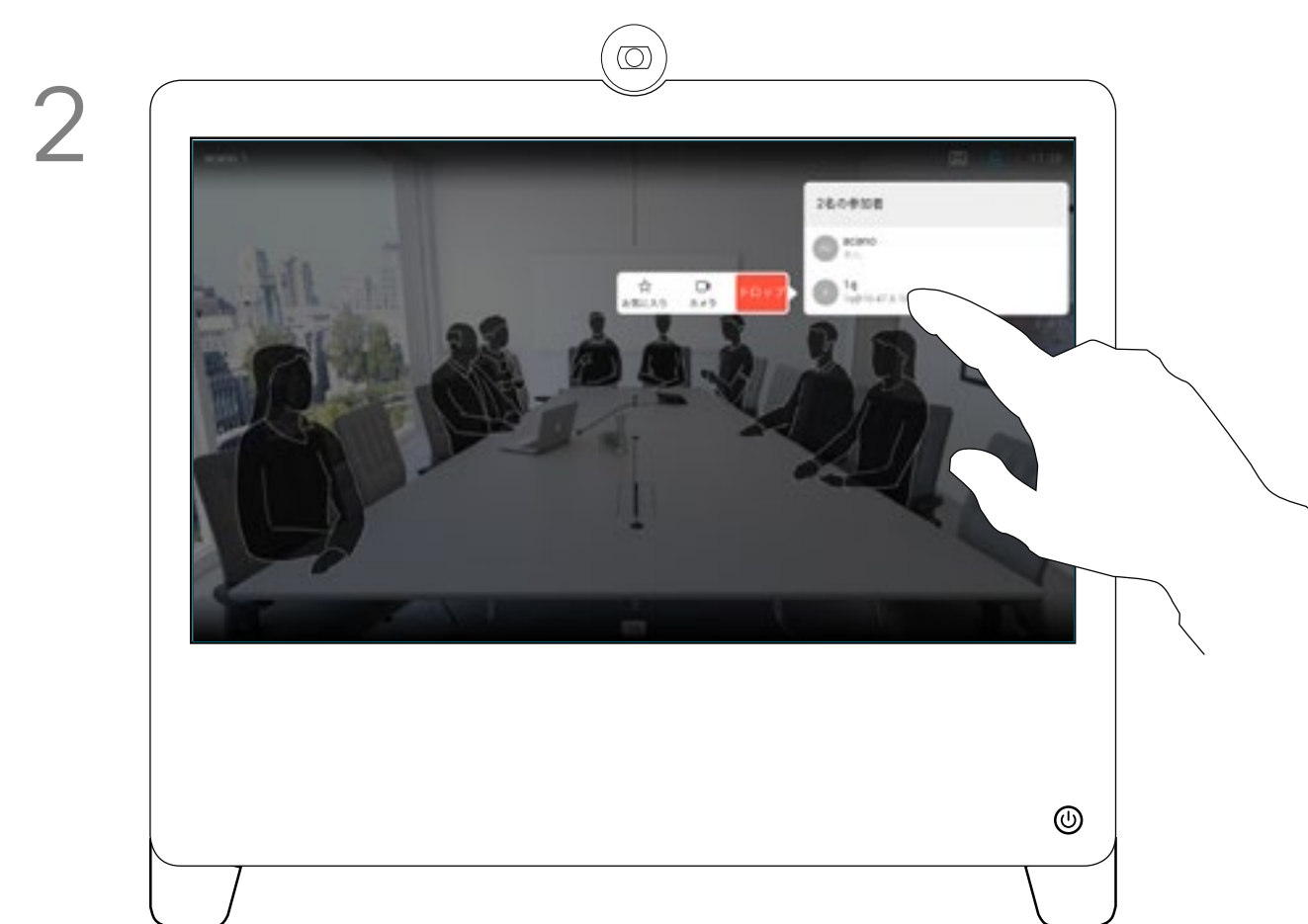
会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。その他の参加者は、会議から自身を切断することのみ可能です。

ビデオ電話 会議から参加者を切断する

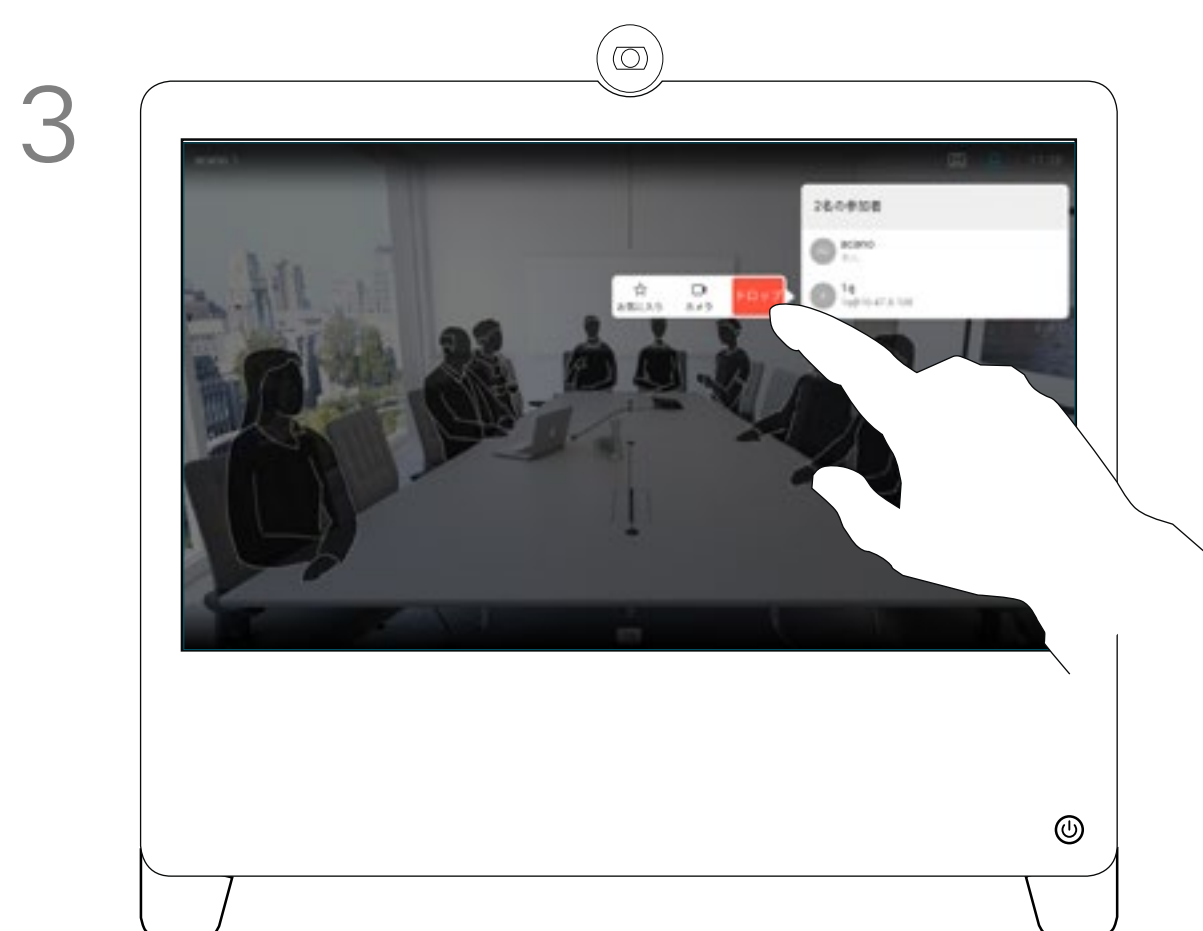
ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



会議からドロップする参加者をタップします。



[ドロップ (Drop)] をタップします。

DX70/80 からビデオ会議を実施する機能はオプションの機能であり、お使いのシステムで利用できる場合と利用できない場合があります。

Intelligent Proximity



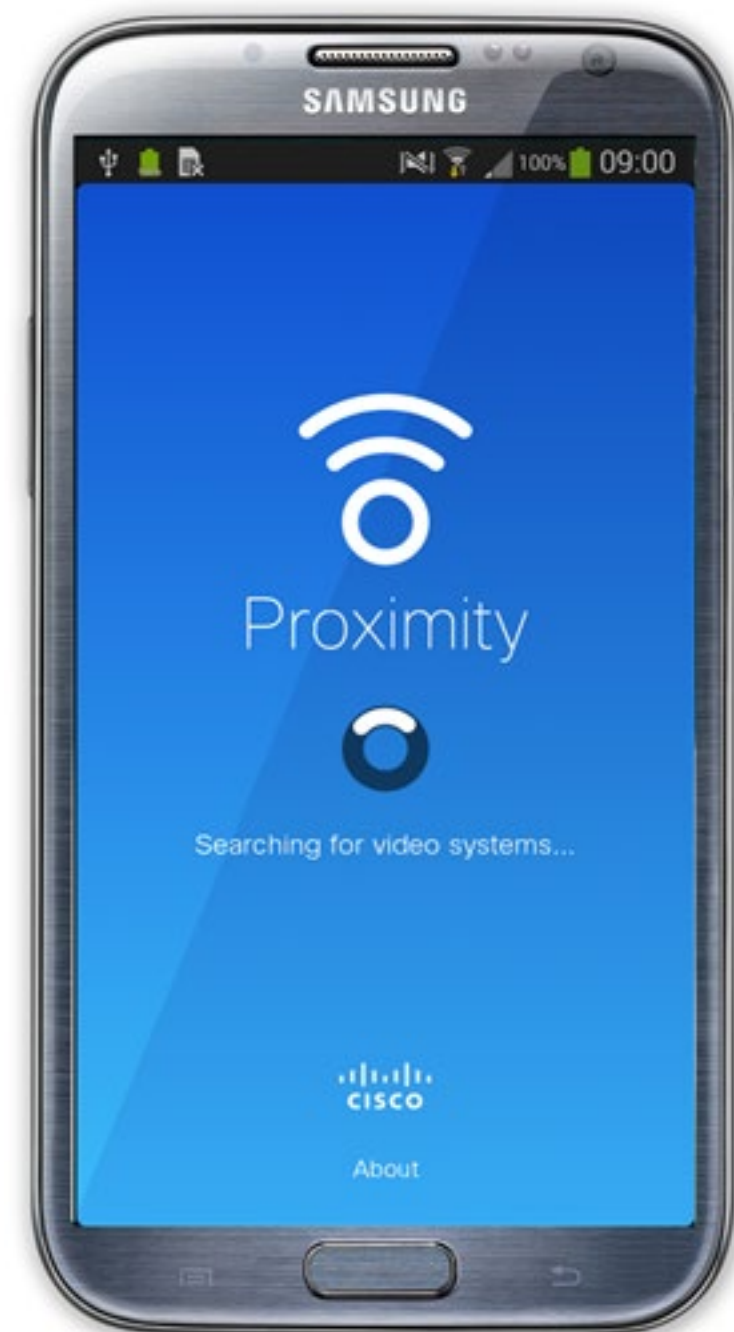
Cisco Proximity の超音波信号について

シスコのビデオ システムは、プロキシミティ機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波にさらされる量の制限値のガイドラインは国によって大きく異なりますが、シスコの Proximity 信号によって発せられている 75 dB は 20 kHz の周波数帯域での現状の最小制限値です。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。

これらのガイドラインには、120 dB 未満の音圧レベルが永続的または一時的な聴力損失を引き起こした例は示されていないと記載されています。



グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco Webex Boards では、ディスプレイの前方 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音について会議スペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が Proximity の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いいため、Proximity の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンド ノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることとなります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたという報告はありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオ コーデックをサードパーティ製のスピーカー システムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。ただし、過剰な外付けアンプを接続したり、スピーカー システムで高周波数の応答を強化したりすると、制限レベルを超える可能性があります。

プロキシミティについて

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元の端末でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使って、ビデオシステムの通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオ サポート チームは、すべての機能を無効にしている場合、すべての機能を有効にしている場合、または一部の機能だけを有効にしている場合があります。

Intelligent Proximity は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室のドアが閉じられた状態では、会議室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシー上の必要がある場合は、会議室の入口を閉めて、隣室に音が漏れないようにします。



コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話中にコンテンツを共有する



通話中に、ソースを接続して、オンになっていることを確認します。[PC の表示 (Show PC)] をタップして、自分の PC の画面を DX70/80 上にローカルに表示します。これを行ったときに画面に表示される内容は、他の参加者には表示されません。



これで、PC 画面のコンテンツが他の参加者と共有されます。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、[PC を非表示にする (Hide PC)] をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように [共有 (Share)] をタップします。



コンテンツの共有を停止するには、図のように [共有を停止 (Stop Sharing)] をタップします。

コンテンツの共有について

ビデオ システムは、ビデオ コールまたはビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。

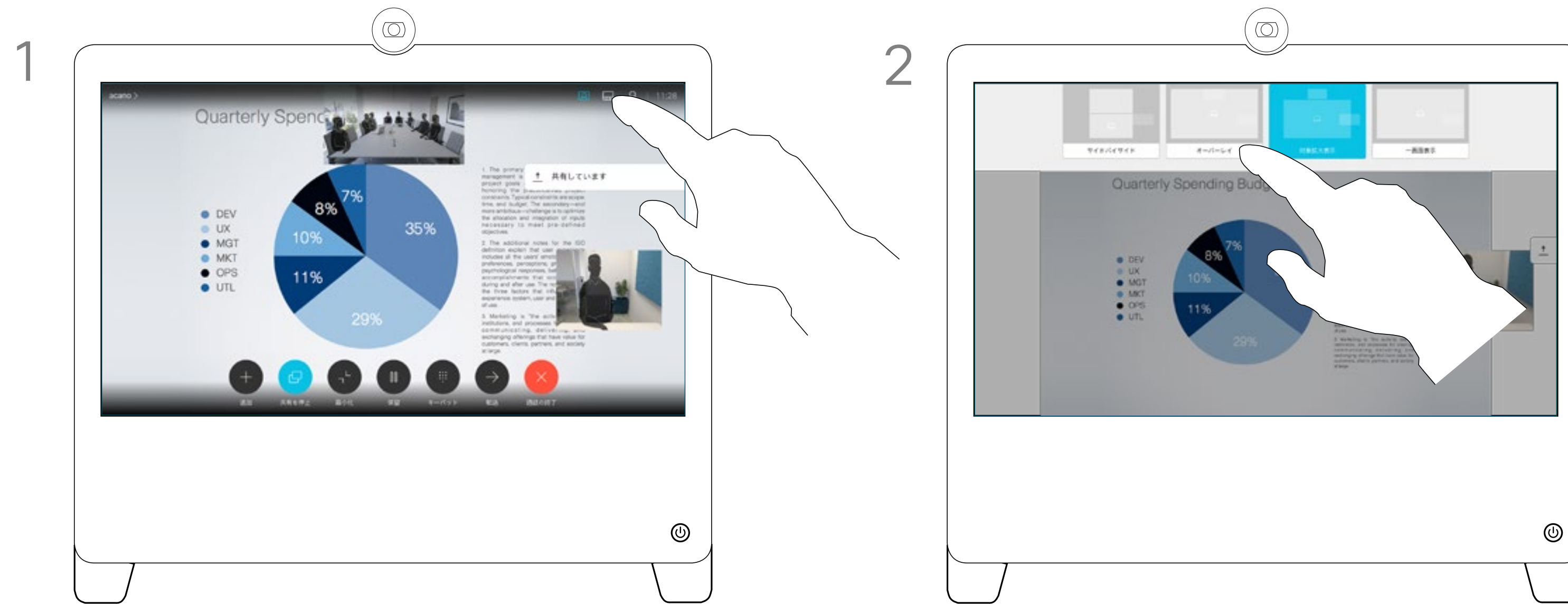
ヒント: システムのカメラは、ドキュメント カメラとして動作させることができます。図のように、カメラを傾げるだけで、システムの前にあるテーブルの上のドキュメントや他の物理的な物体を映すことができます。

カメラは、カメラに対する操作を認識し、自動的にイメージを垂直方向に反転します。そのため、イメージは期待どおりに、コミュニケーションの相手に表示されます。



コンテンツ共有 通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて



図のように、レイアウトをタップして、レイアウトのオプションを呼び出します。

目的のレイアウトをタップして選択します。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンターを表示するかどうか、およびプレゼンターを PiP (ピクチャ イン ピクチャ) と PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) のどちらで表示するかを選択できます。

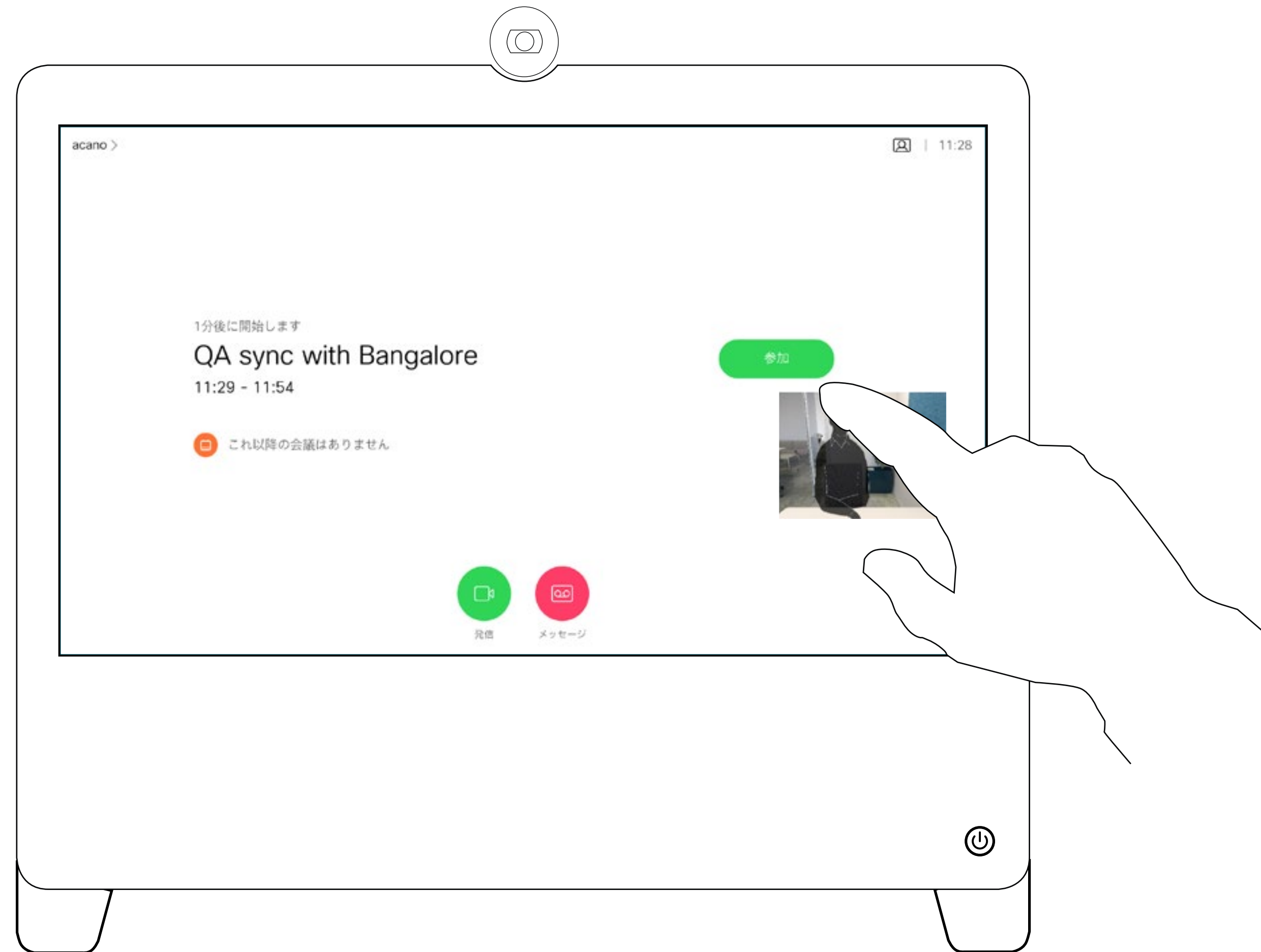
システムで使用可能なレイアウトのオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、常に、選択可能なレイアウトが表示されます。



スケジュールされた会議

スケジュールされた会議

スケジュールされたミーティングに参加する



ミーティングへの参加

ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。スケジュールされているミーティングは、図のように左側に表示されます。

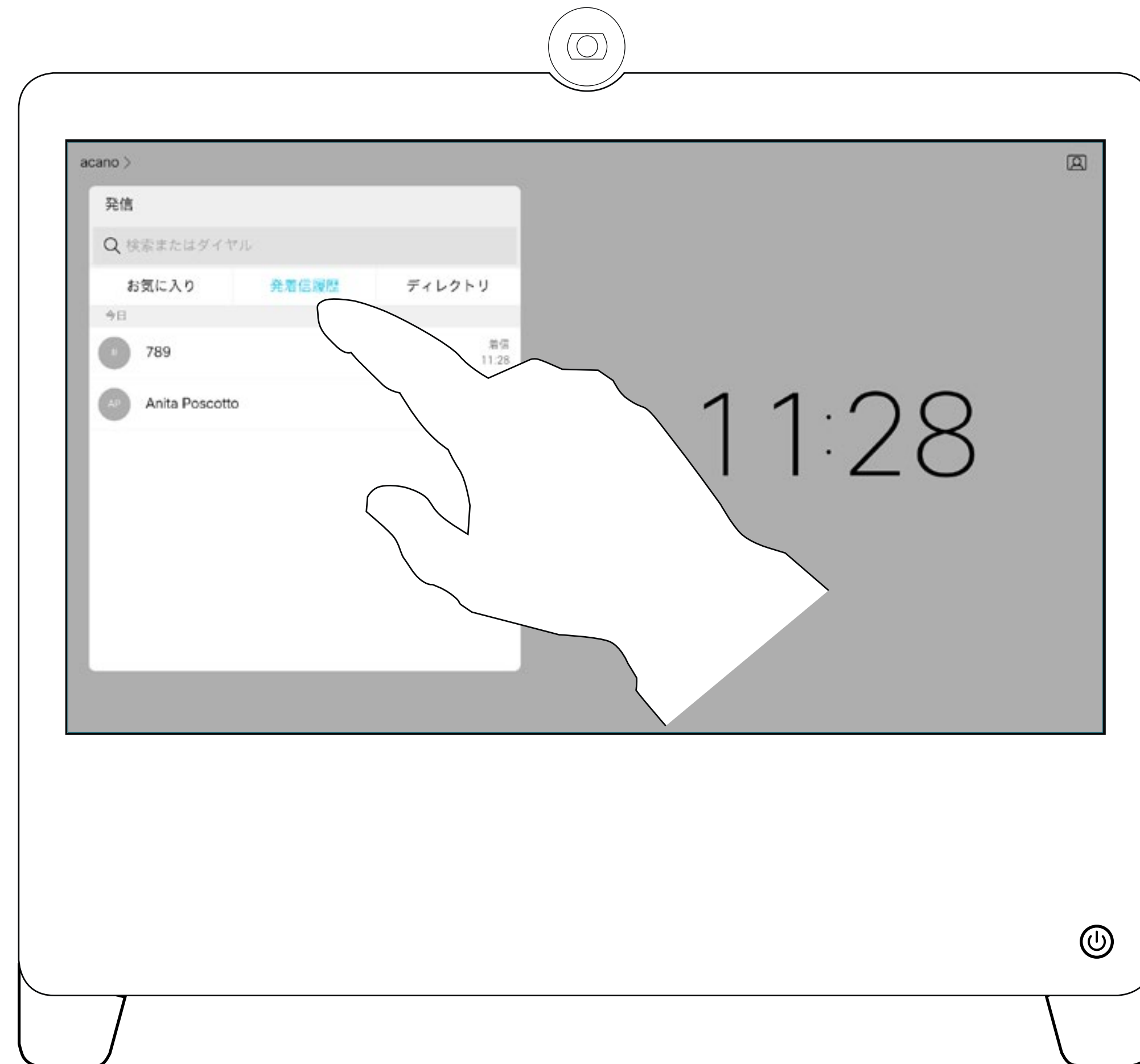
会議に参加するには [参加 (Join)] をタップします。

会議がすでに始まっても参加できます。



コンタクト

コンタクト お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ



連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要がある人です。

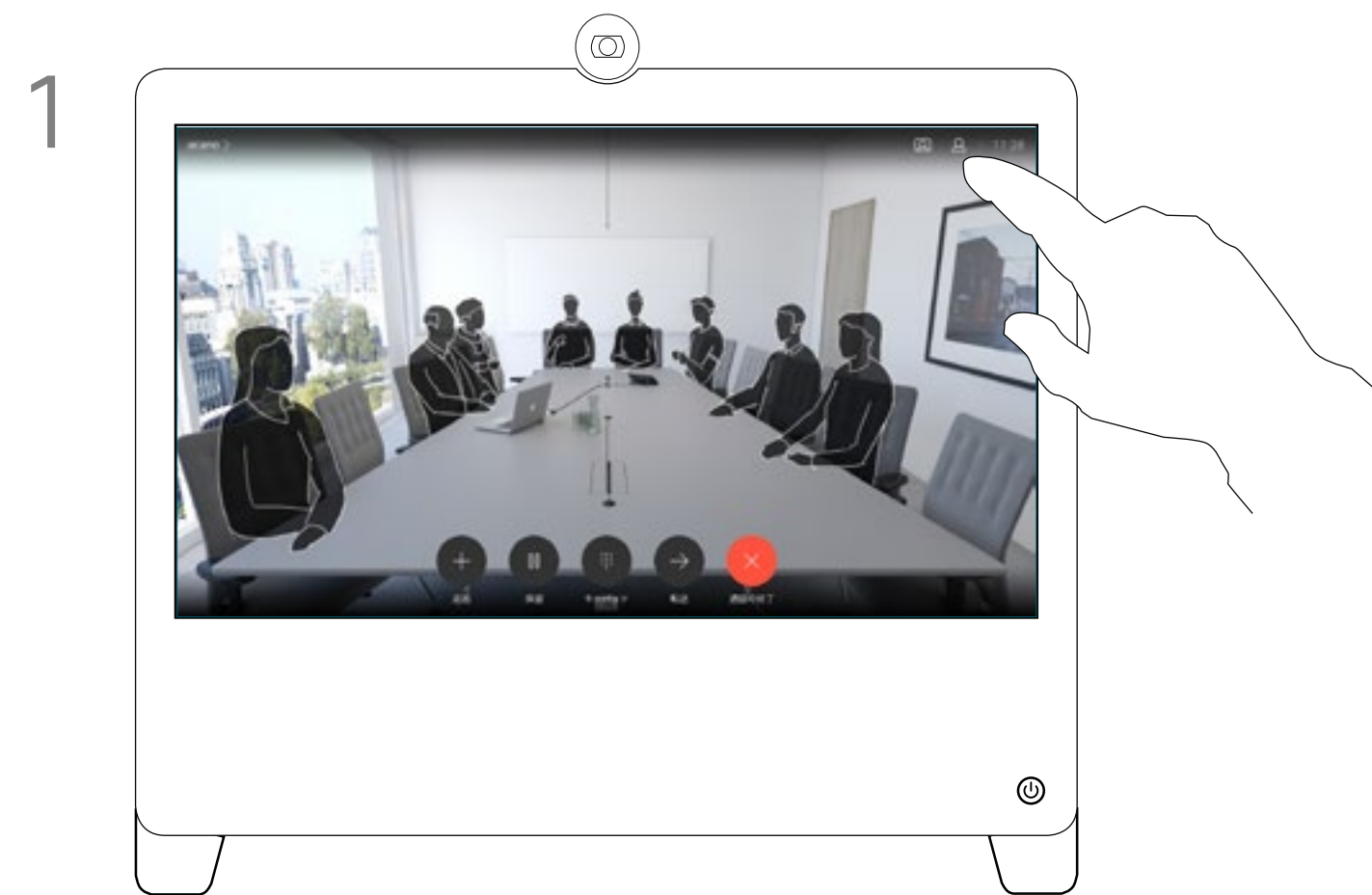
[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

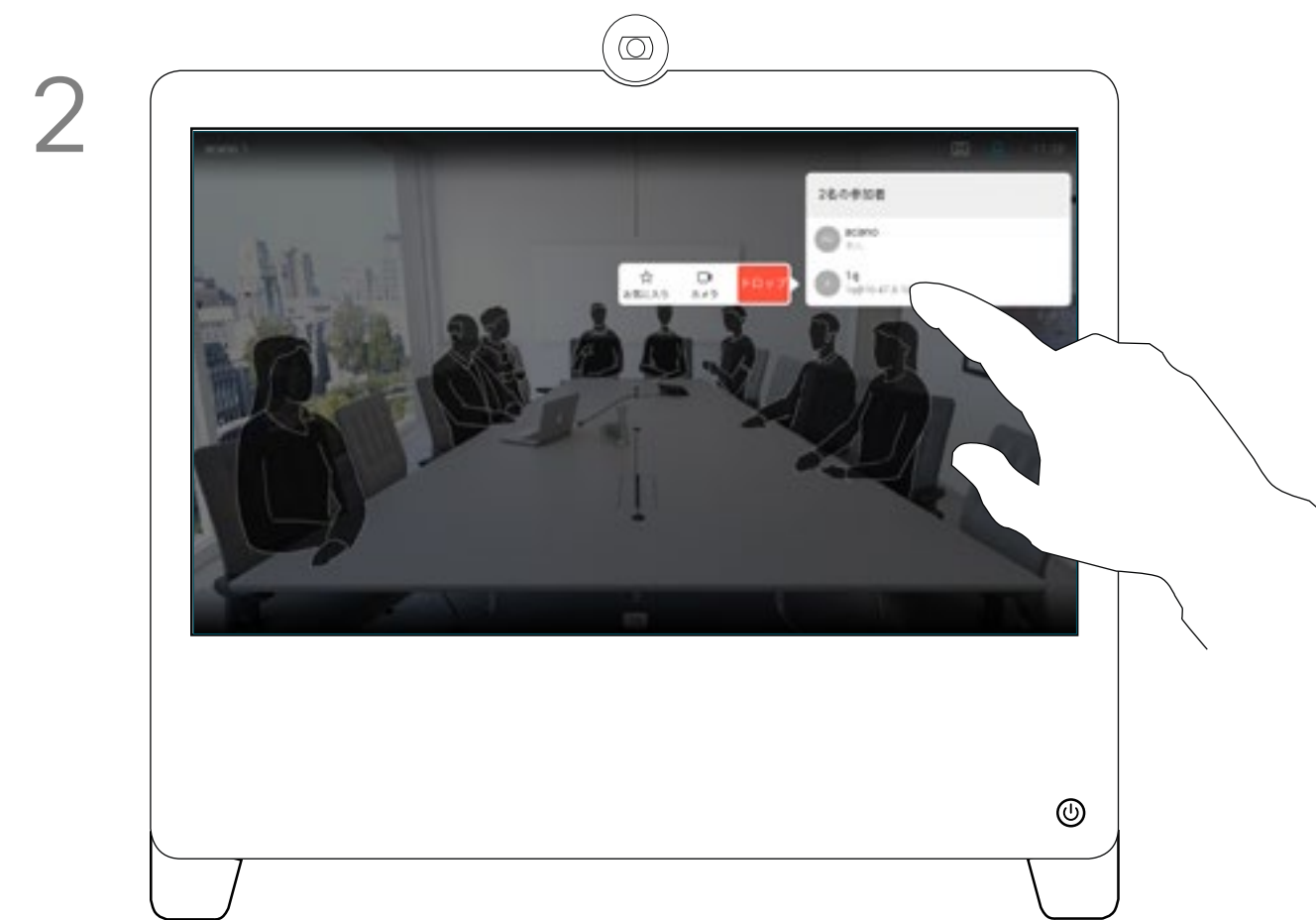
[発着信履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

コンタクト 通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する

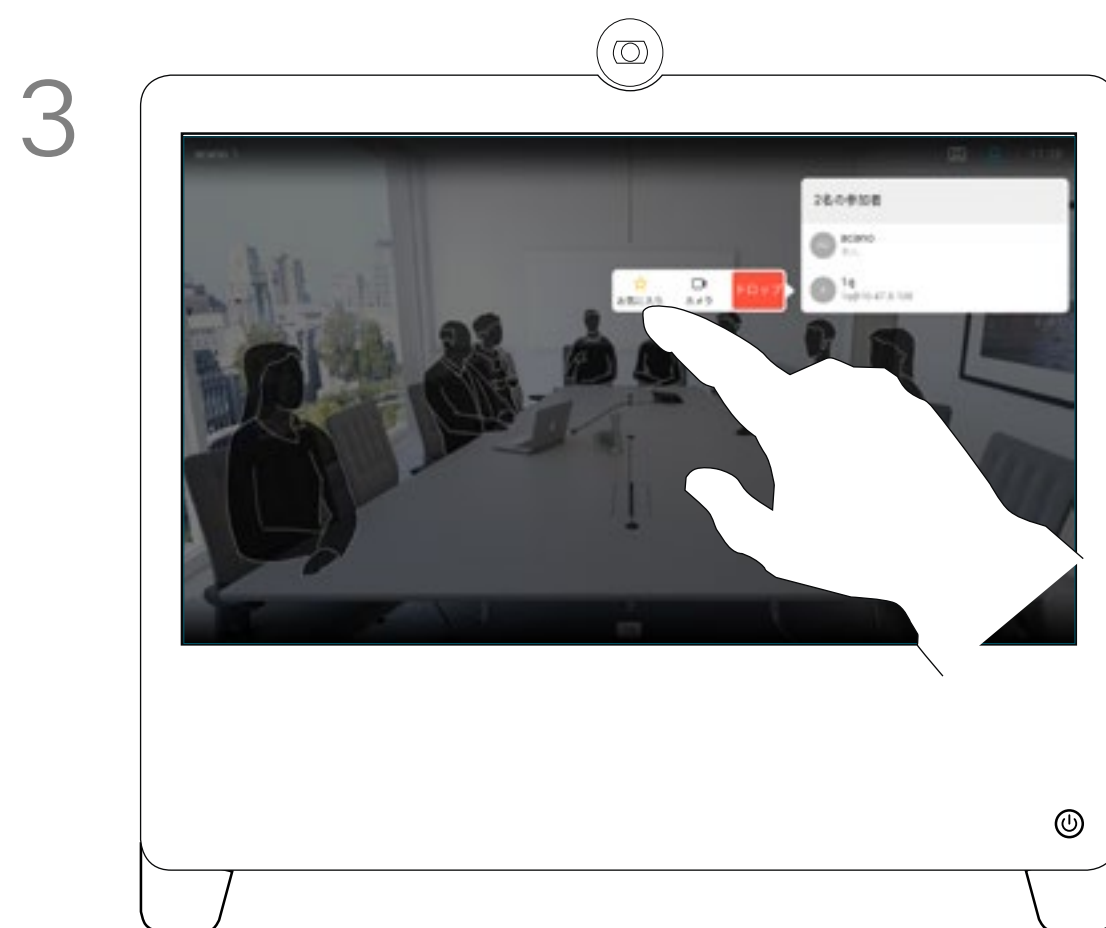
お気に入りについて



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。小さいメニューでその参加者をドロップする (その参加者を終了する) か、お気に入りリストにその参加者を追加することができます。



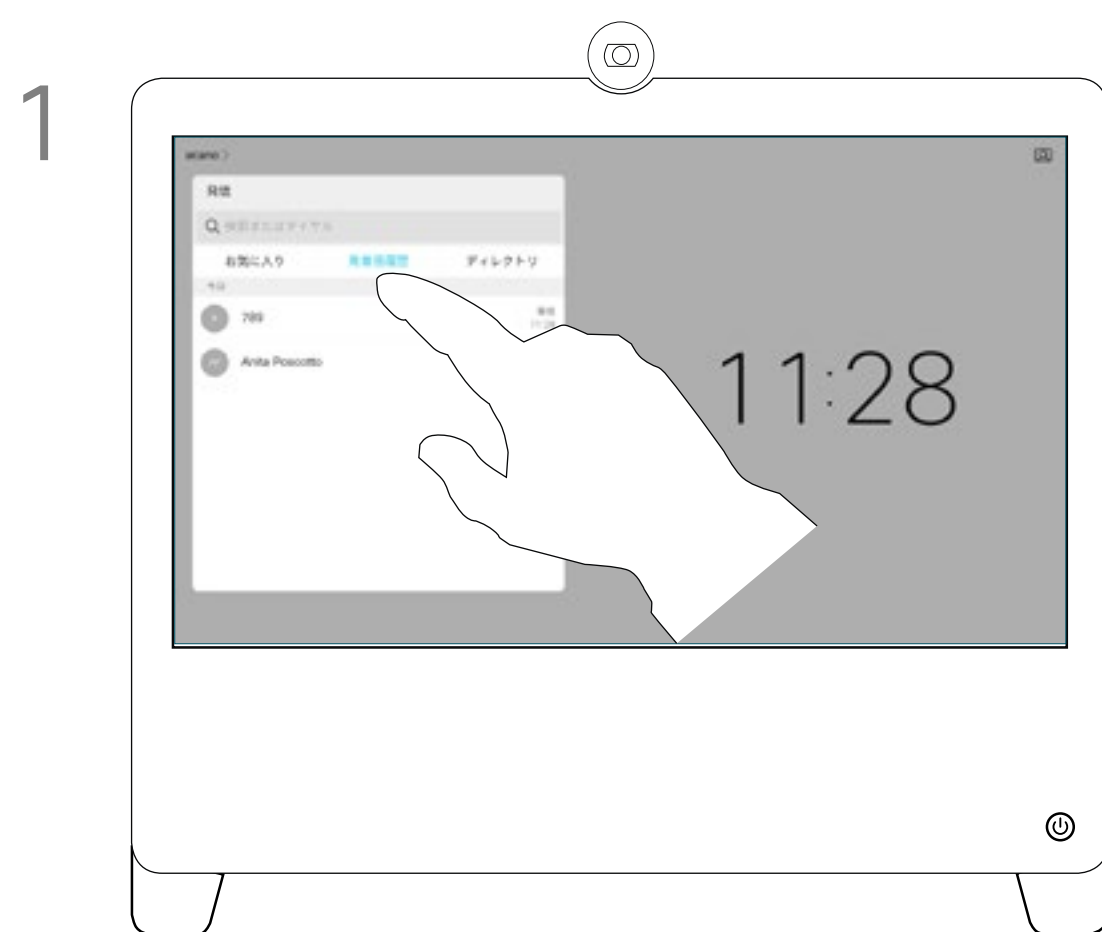
[お気に入り (Favorite)] をタップします。

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

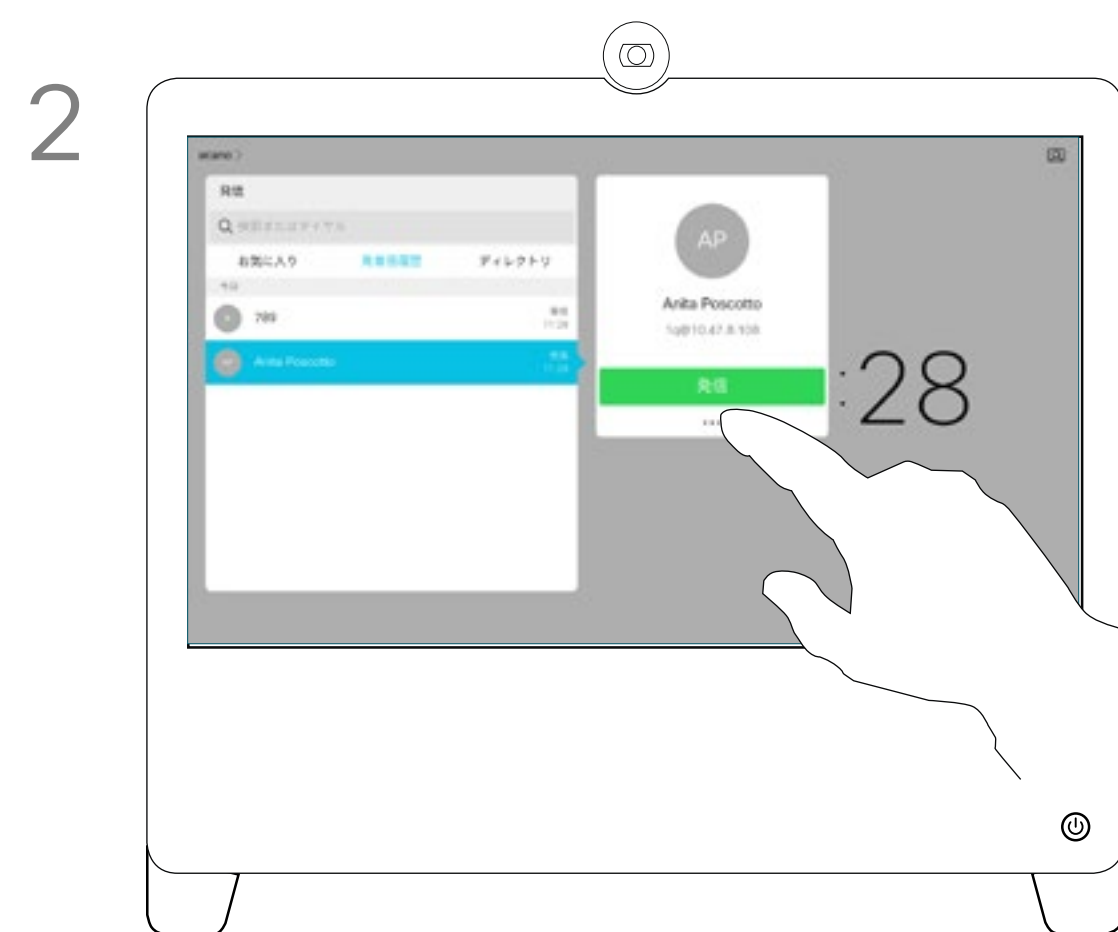
[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

誰かを非通話時にお気に入りに追加する

この機能について



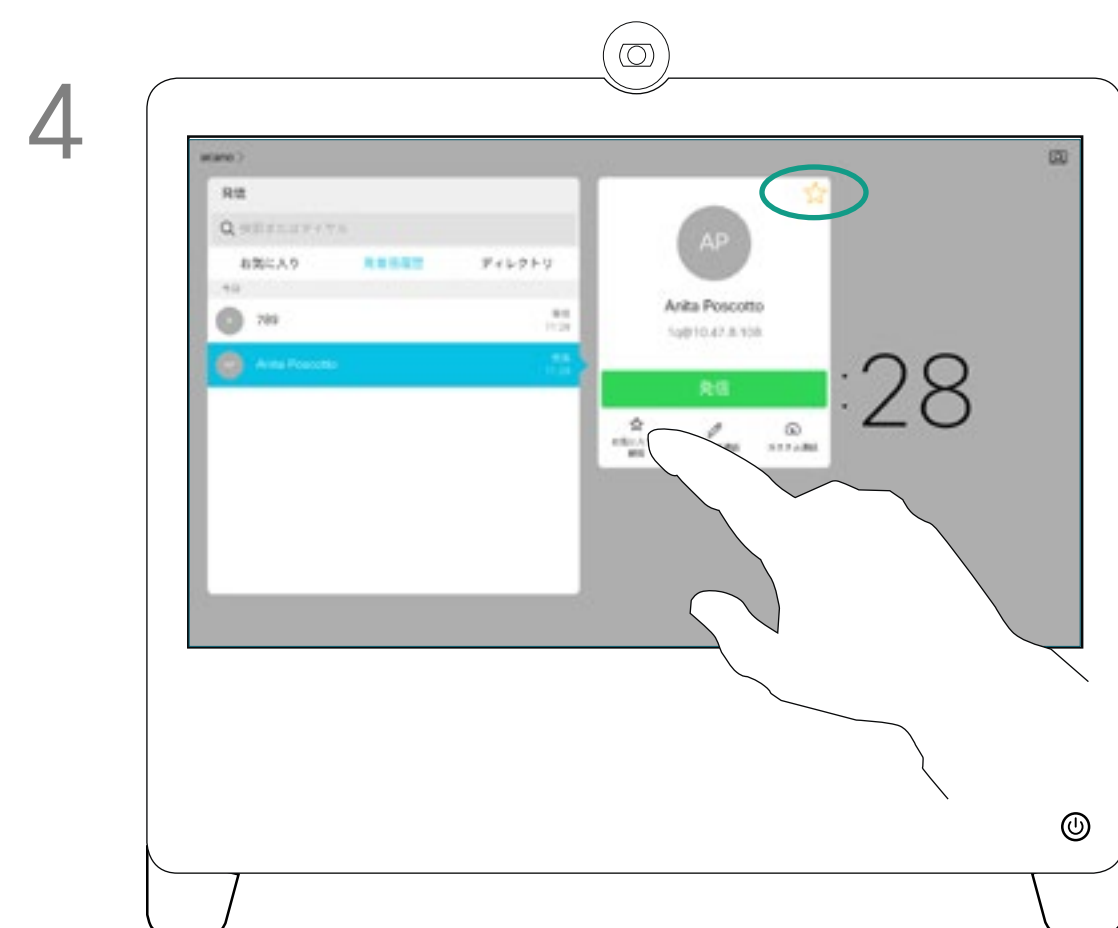
図のように、非通話時に [発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。上記の画面が表示されます。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他 (...) アイコンをタップします。



[お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] をタップします。これで、エントリが [お気に入り (Favorites)] に追加されました。メニュー以外の場所をタップして終了します。



図のように、[お気に入り (Favorite)] が金色の星印で表示されます。[お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先 (Contacts)] 中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

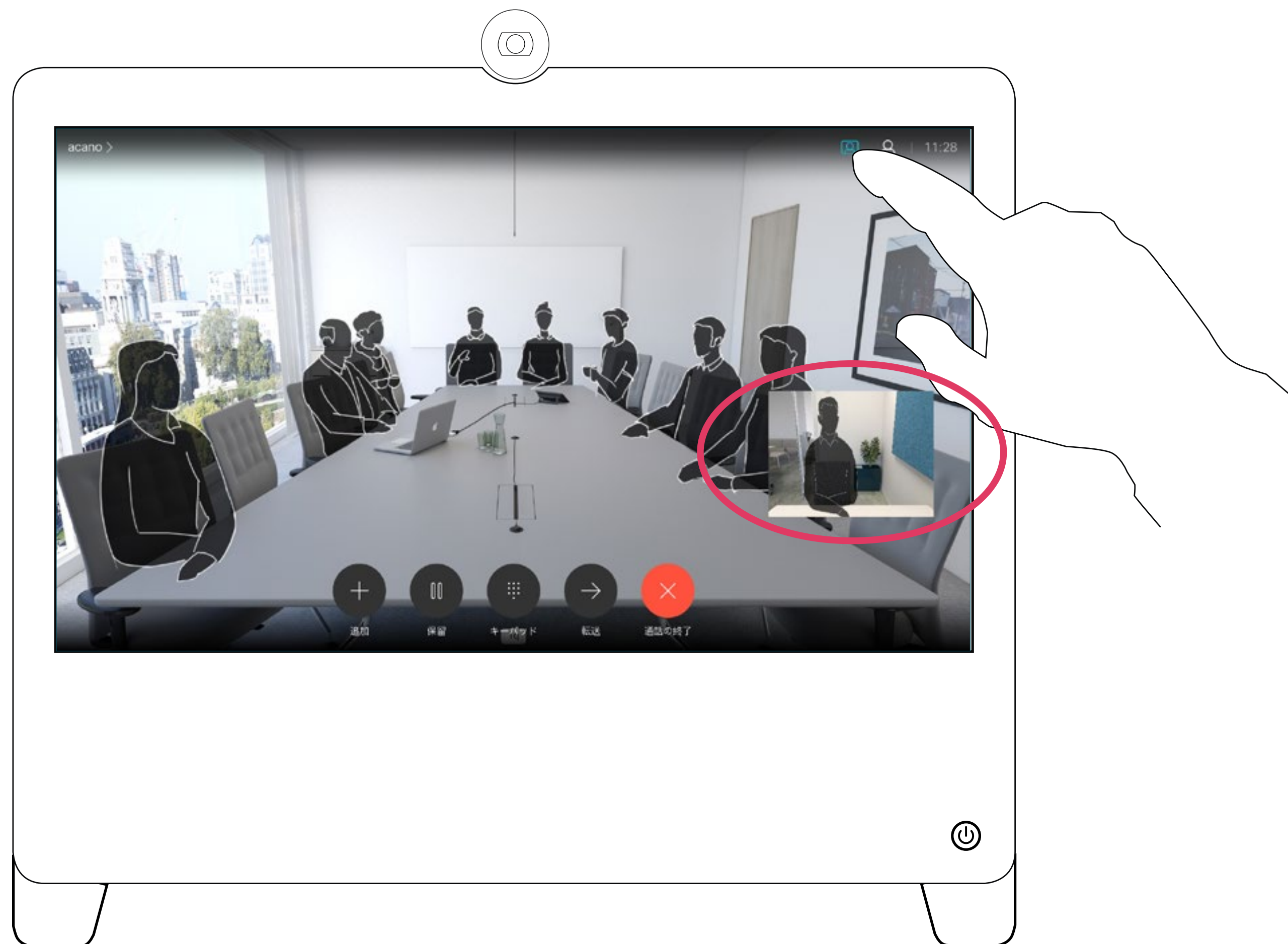
手動で入力して [お気に入り (Favorites)] リストに追加するには、名前かアドレスを [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに入力します。詳細については、[「名前、番号、または住所を使用して発信する」](#)、11 ページ を参照してください。



カメラ制御

カメラ制御

自画面のオン/オフを切り替えます



自画面とは

セルフビューは、他の参加者に表示される画面です。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

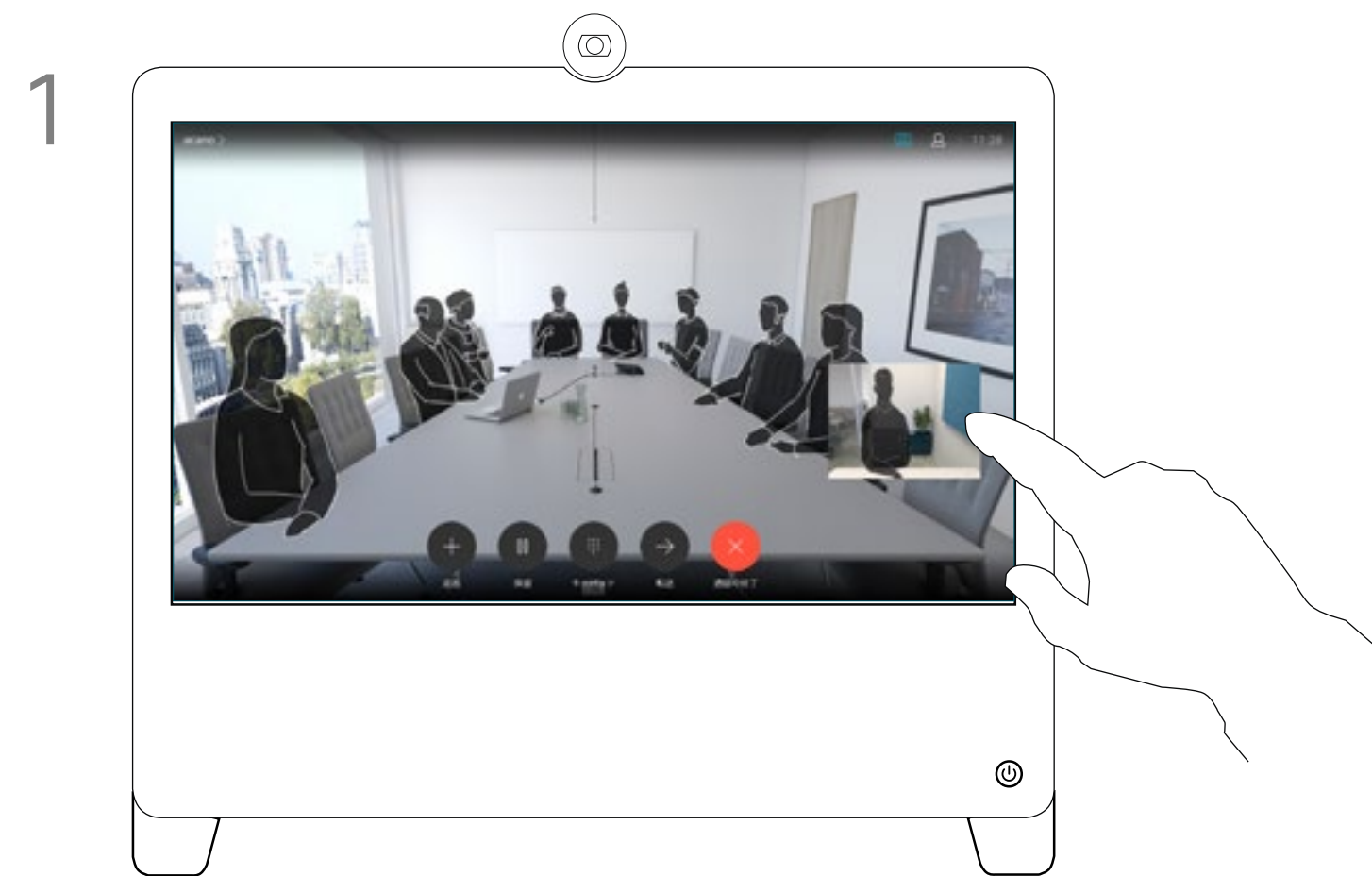
会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、セルフビューを使用すると、自分が画面に表示されていることを確認できます。

左に示すようにタップして自画面をアクティブ化または非アクティブ化します。

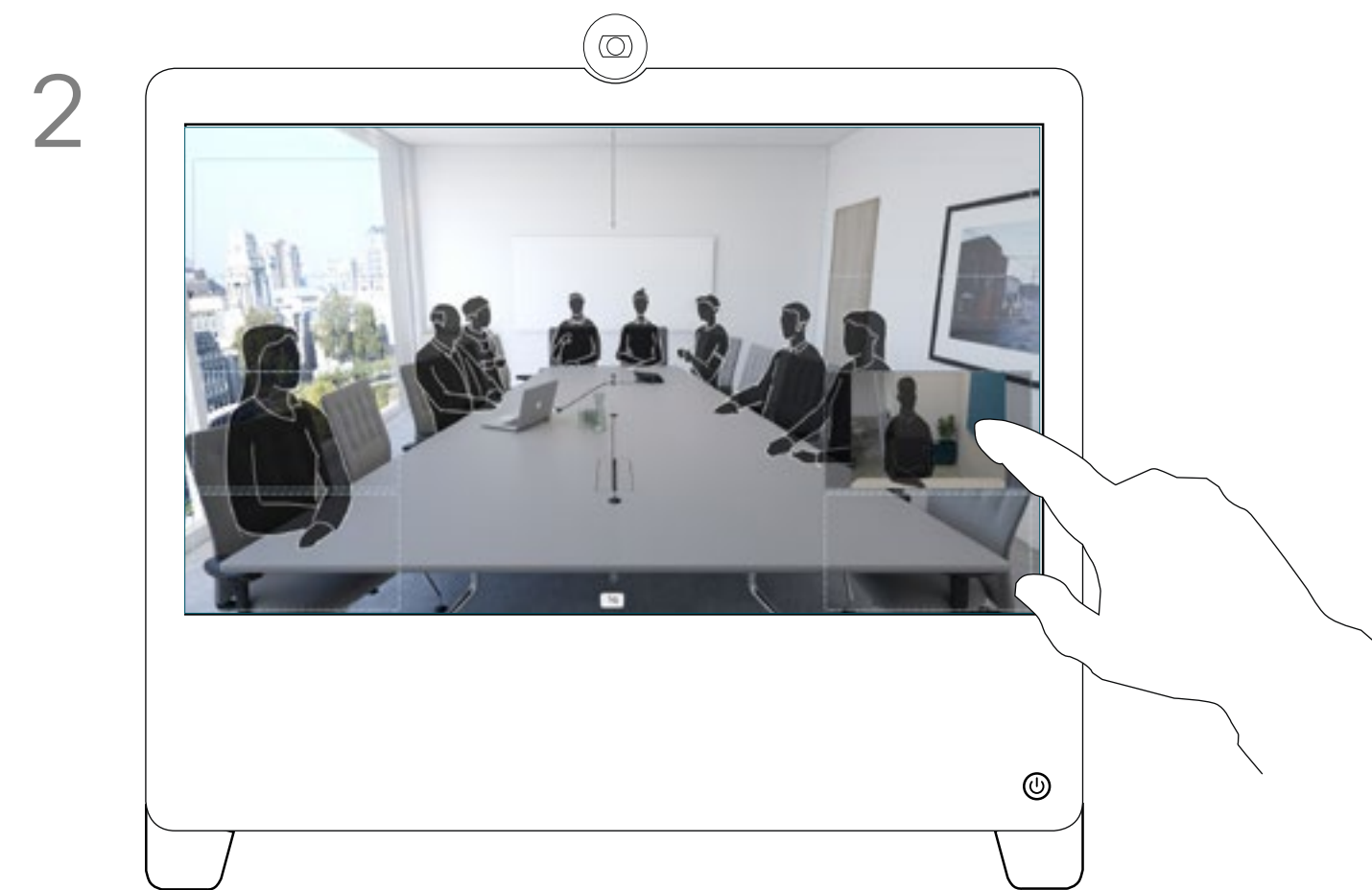
セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このため、移動できます (詳細については、次のページを参照してください)。

自画面 PiP の移動

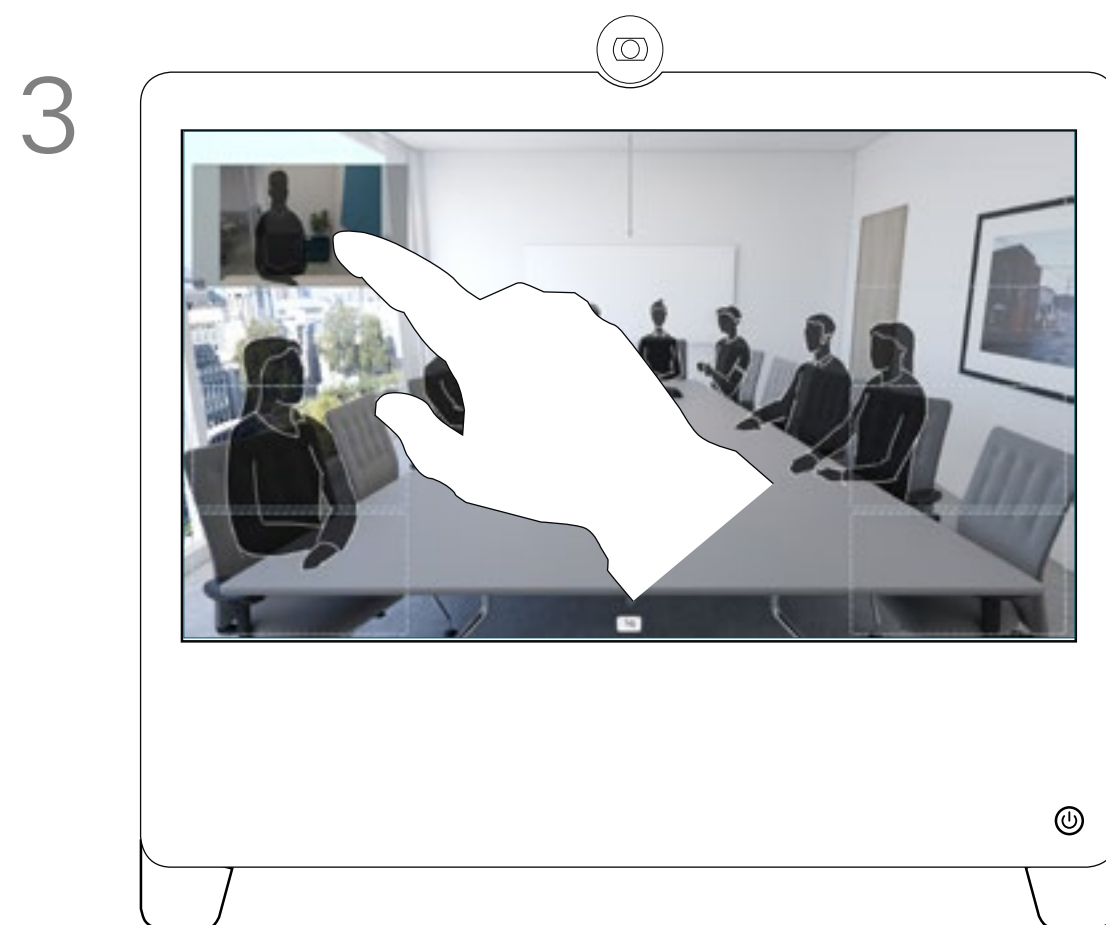
自画面を移動する理由



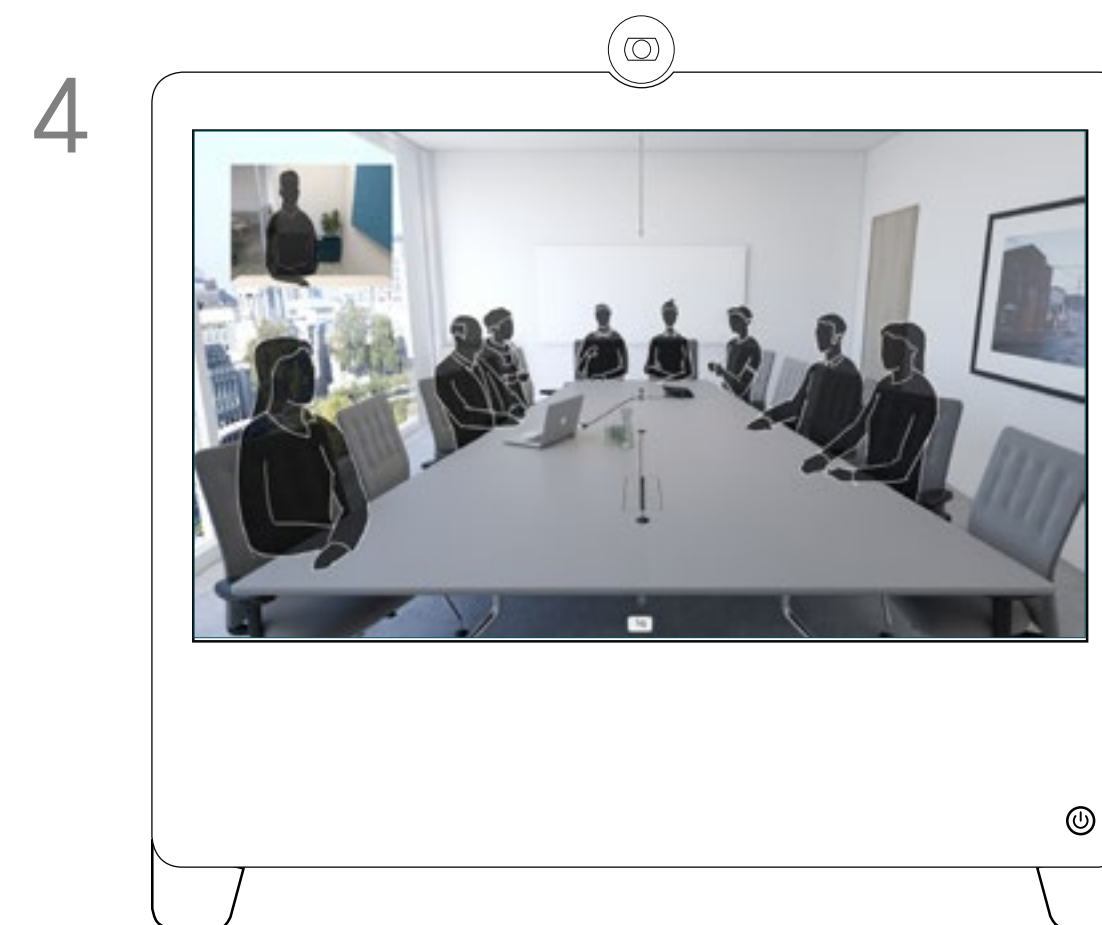
セルフビュー画像をタップして、長押しします。



セルフビュー画像を表示できる別の位置が示されます。画像をタップしたままにします。



画像を新しい位置にドラッグします（ここでは左上隅に表示します）。



画面から指を離して、画像を放します。これで、セルフビュー画像が新しい位置に表示されました。

セルフビューは、他の参加者に表示される画面です。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

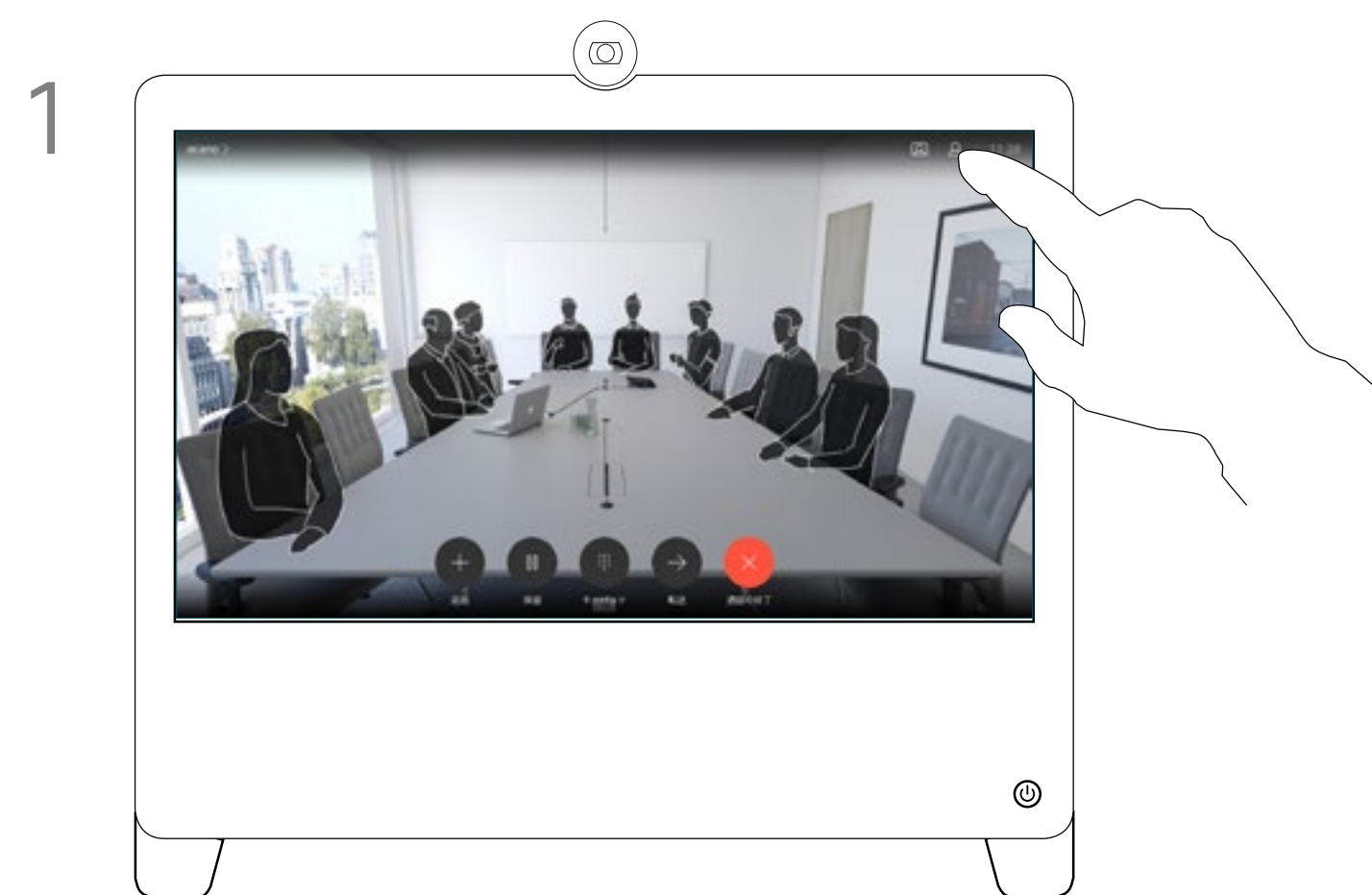
自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、セルフビューを使用すると、自分が画面に表示されていることを確認できます。

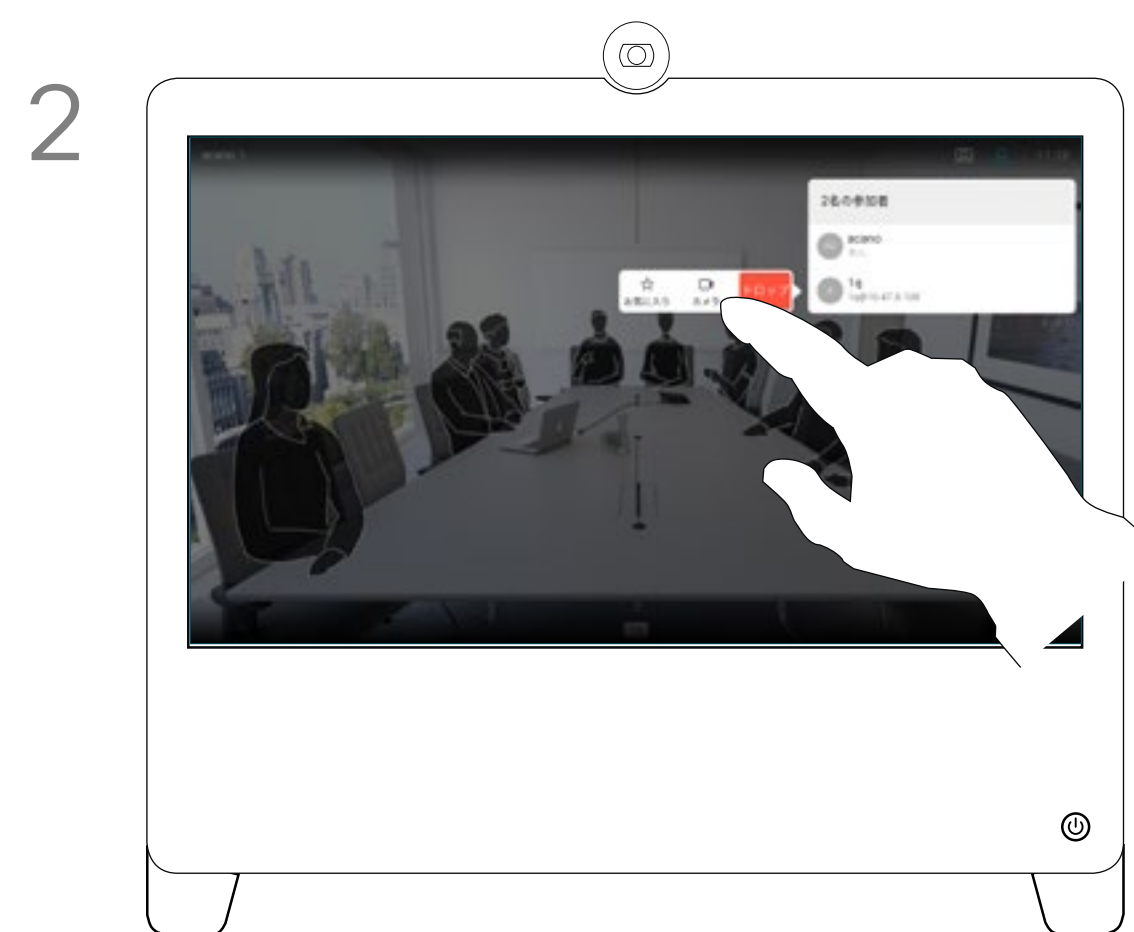
セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。

カメラ制御 遠端カメラ制御

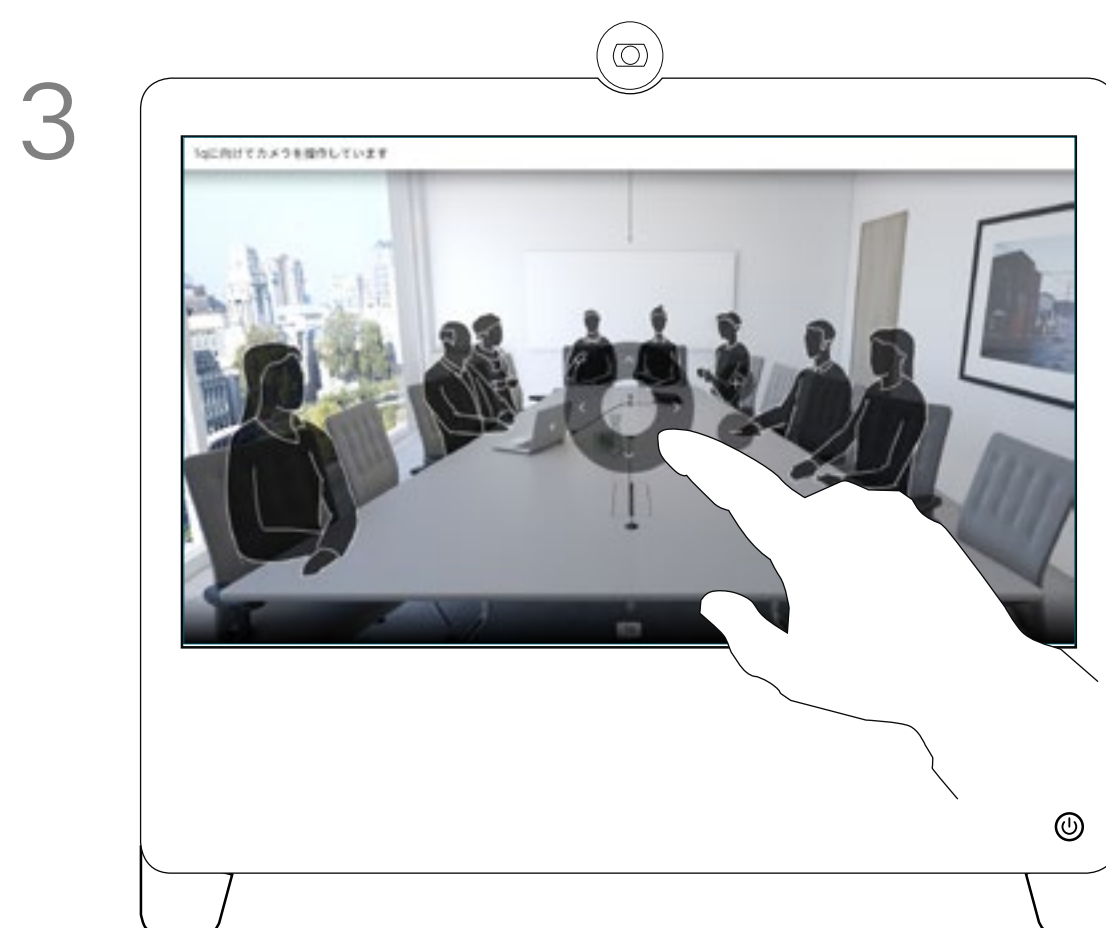
カメラ操作について



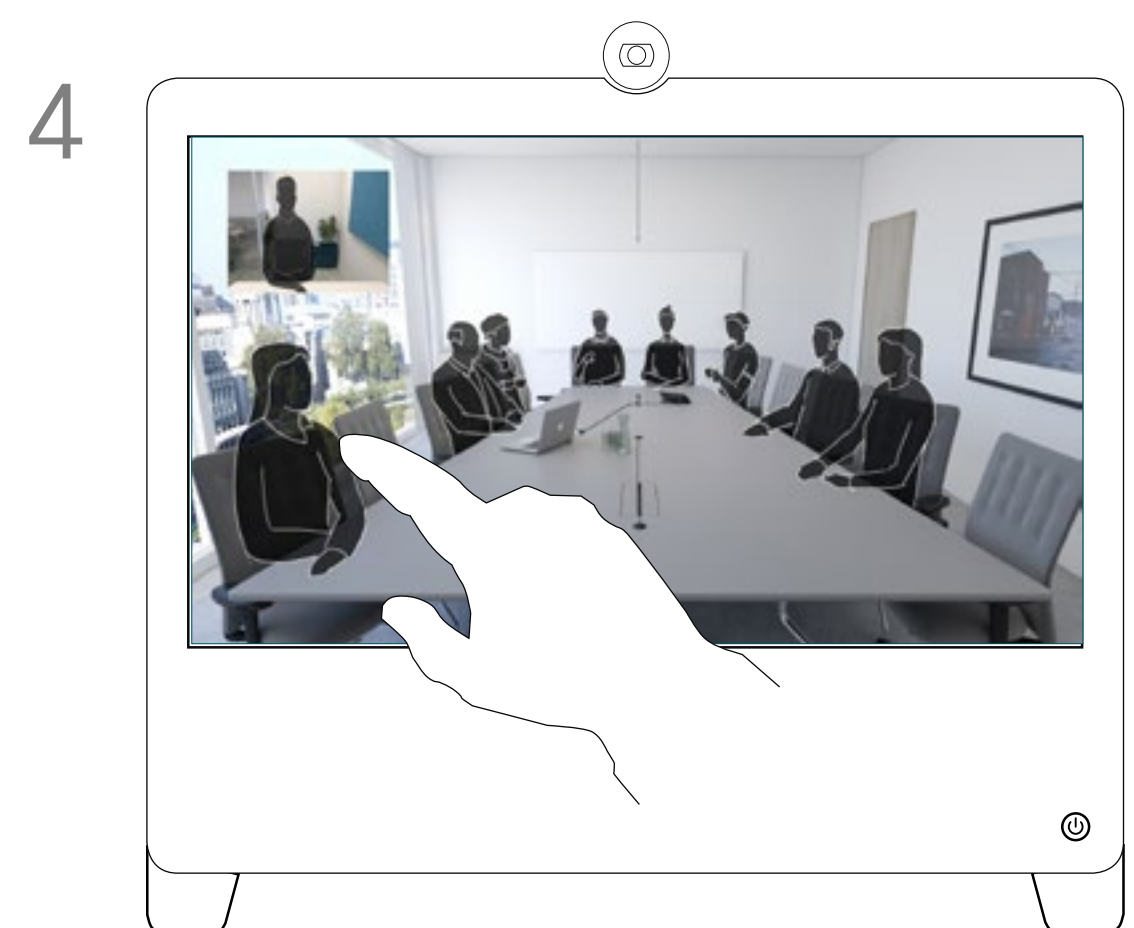
参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、[カメラ (Camera)] をタップします。



パン、傾斜、およびズーム コントロールを必要に応じて使用します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。

ビデオ通話中に、他の 1 つまたは複数のビデオ システムで遠隔から操作できるカメラが使用されていることがあります。

自分のビデオ システムからこれらのカメラを制御できます。これは、遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムで (カメラが通話相手を追跡および表示するときに行われる) カメラ トラッキングが有効になっている場合、FECC のオプションは提供されません。



設定

アクセスできる設定の概要

このメニューにアクセスするには、左上隅の小さなアイコンをタップしてから、[設定 (Settings)] をタップします。お使いの DX70/DX80 の状態の概要が表示されます。

ビデオのアドレス情報、IP アドレスおよび MAC アドレス、SIP プロキシ、および現在のソフトウェアバージョンが表示されます。

Bluetooth を有効化/非アクティブします。

着信音を選択したり、着信音の音量を設定できます。

通話サービスを選択します。

有線またはワイヤレス (Wi-Fi) 接続から選択します。

システムを再起動します。

[初期設定へのリセット (Factory Reset)] を実行して、[工場出荷時のデフォルト設定 (Factory default settings)] に戻します (非表示)。



